

令和元年度 第2回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

日時：令和元年7月23日（火）13:00～17:00

場所：金沢ふるさと偉人館 3階 講座室

（事務局） 委員の皆さま、本日は大変お忙しい中、また、大変暑い中をお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただ今より第2回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を開催いたします。

初めに、金沢市教育委員会の野口教育長が開会のご挨拶を申し上げます。

1. 開会挨拶

（教育長） 委員の皆さま、こんにちは。今日は大変ご多用の中、第2回の金沢市の教科書の選定委員会にご出席を賜りまして、大変ありがとうございます。学校の方は既に、小学校も中学校も高校も夏季休業に入りました。とは言いながらも、今日は3人の校長先生にお越しいただいております。きっと保護者懇談会等も各学校でおありになるのかなと思ひまして、申し訳ない思いも若干ありますけれども、ぜひお時間を頂戴して、審議をお願いしたいと思ひます。

暑い2日間になりますが、これからどうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

前回の第1回の選定委員会におきましては、各学校の各教科を専門に勉強されている先生方に調査研究をお願いすることになりました。また、各学校で先生方に教科書を見ていただき、研究委員会としてご意見を頂戴したいということでご審議いただきました。今日は、皆さまのお手元に調査委員会からの報告、各学校の研究委員会からの報告、そして教科書展示会でいただきました市民の方々のご意見等もご参考にしていただきながらご議論いただき、その答申を頂ければと思ひています。大変長時間になりますが、どうぞよろしくお願ひします。

（事務局） まず、本日の資料を確認させていただきます。お手元にお配りしておりますのが、第2回、第3回の選定委員会のレジュメと、クリアファイルに綴っております資料A「教科用図書調査研究報告書」、資料B「各小学校における教科用図書研究委員会 調査研究報告書」、資料C「教科書展示会に寄せられた市民の意見のまとめ 一常設展示場（金沢市教育プラザ富樫） 一移動展示場（金沢市立小学校28校）一」、資料D「教科書採択に係る要望書等」、以上です。ご確認をお願いいたします。

併せて、石川県教科用図書選定資料や、第1回の選定委員会でお配りしました教科書編修趣意書、学習指導要領解説等も参考資料としてご用意いただければと思ひます。資料の過不足等はございませんでしょうか。

なお、本日の資料は選定委員会の性質上、明日の第3回選定委員会終了後に全て回収させていただきます。資料につきましては、明日の第3回選定委員会においてそのままお使いいただけるように準備させていただきますので、メモ等を取っていただいても結構です。また、第1回の選定委員会でもお伝えしたとおり、教科書採択に関わる情報については、審議中は非公開となっております。採択決定後は選定委員名と採択結果、採択理由、調査資料、選定委員会の議事録について公開する予定となっております。このため、本会議においては会議録作成のため録音させていただきますことをご了承ください。

それでは、この後の議事進行は選定委員長にお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

（選定委員長） 皆さん、こんにちは。よろしくお願ひいたします。今回は令和2年度から令和5年度までの4年間使用する、小学校用教科用の採択となります。金沢市の小学生にとって最も適切な教

科書が採択されるよう答申を行いたいと思いますので、委員の皆さま、よろしくお願いたします。

それでは、レジュメの表紙裏の次第に沿って進めてまいりたいと思います。初めに事務局より、これまでの経緯や本日の資料の見方について説明していただきます。

2. 報告

(学校指導課長) 本日の委員会に至る経緯等について報告させていただきます。

レジュメの2ページをご覧ください。5月31日の第1回選定委員会を受け、6月4日に第1回調査委員会を開催いたしました。その折に調査委員の皆さまには教科書を持ち帰っていただき、調査研究を進めていただきました。約4週間の調査研究期間を経て、7月5日に第2回調査委員会を開催いたしました。それまでの調査研究の結果を資料Aの報告書としてまとめていただきました。

また、金沢市立小学校53校にもそれぞれ研究委員会を立ち上げていただき、調査を頂きました。その調査研究の結果をまとめたものが資料Bの報告書です。

さらに、市民・保護者の方々に教科書を見ていただくために教科書展示会を開催いたしました。教育プラザ富樫において6月14日から6月27日までの14日間、常設展示を行うとともに、金沢市立小学校の28校においては6月12日から27日まで、各校3日間ずつ移動展示を行いました。これらの展示会におきましては意見箱を設置し、広く市民や保護者の方々にも閲覧いただくとともに、ご意見を寄せていただきました。なお、石川県では6月14日から27日を教科書展示期間とし、金沢市内では教育プラザ富樫の他、県教員総合研修センター、県立図書館に教科書を展示しておりました。

続いて、レジュメの3ページをご覧ください。金沢市の教科書展示会場に訪れた人数を載せています。期間中、教育プラザ富樫には90名の一般の方々が来てくださいました。教職員等も合わせますと、教育プラザ富樫では192名の方が教科書をご覧になりました。各また、各学校での移動展示には一般の方が63名来てくださいました。教職員等を合わせると、移動展示では805名の方が教科書をご覧になったこととなります。両展示場を合わせますと、一般の方が153名、教職員等を合わせると997名の方が教科書をご覧になったということとなります。

続いて、本日配付しました資料の内容についてご説明を申し上げます。レジュメの4ページとファイルの資料Aをご覧ください。資料Aの「教科用図書調査委員会 調査研究報告書」は、教科用図書調査委員会が作成した報告書です。第1回選定委員会でお示ししたとおり、金沢市の採択方針に基づき、「特別の教科 道徳」以外の小学校用教科書については九つの調査研究項目において調査し、「特別の教科 道徳」については七つの調査研究項目で調査研究した結果の報告書となっております。発行者は左から発行者番号順に略称で掲載しています。それぞれのマスに発行者の優れた点が記されております。これらの資料は、調査委員会が約4週間にわたって綿密に調査研究を実施して作成した報告書となります。

資料Bをご覧ください。これは「各小学校における教科用図書研究委員会 調査研究報告書」です。金沢市立の小学校53校全てで調査研究を行い、各発行者の優れた点を中心に挙げていただき、それを事務局で取りまとめたものです。括弧に示されている数字は、類似した意見を取りまとめた意見の合計数となっております。ご覧いただく際には、合計数とともに、各学校の先生方がそれぞれの教科書についてどのような点が優れていると感じているか、それぞれの教科書の特徴をどのように捉えているかという視点でも参考にしていただければと思います。また、資料Bの14ページをご覧ください。これは資料Bの別紙として、優れている点以外についてご意見のあったものをまとめたものです。こちらも、ご覧いただけたらと思います。

続いて、資料Cをご覧ください。これは教科書展示会に寄せられた市民の意見をまとめた資料となります。ご意見・ご感想がプラザでは75枚、移動展示場には42枚寄せられました。それらをまと

めたものが資料Cになります。各発行者に関するご意見もございます。なお、今年度は小学校用教科書の採択年度ではありますが、市民の方から中学校用教科書についての意見もございましたので、5ページの左側中ほどから「中学校用教科用図書に係る意見」としてまとめていますので、お知りおきいただければと思います。また、各種目について審議する際には、事務局より資料Dや資料Cの内容を簡潔に説明させていただきます。市民や保護者の意見として参考にしていただければと思っております。

続いて、資料Dをご覧ください。資料Dは、各団体等から教育委員会に提出されております教科書採択に係る要望書等です。

最後に、緑の冊子でお配りしております石川県教科用図書選定資料がございます。これは参考資料として石川県教育委員会が作成し、教科書採択のための指導・助言・援助として金沢市に送付されたものです。発行者ごとに特徴・特記すべき事項が書かれております。こちらの資料については、審議の際にご覧いただけたらと思います。

以上で、事務局からの報告と説明を終わらせていただきます。

(選定委員長) ありがとうございます。では、ただ今の報告に対してご質問があれば、伺いたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、進めさせていただきます。この後の審議の進め方を提案させていただきます。初めに教科用図書調査委員会の委員長から、教科書を使いながら、調査研究報告書Aの説明をしていただきます。印などを付けながらお聞きいただければと思います。説明を聞いて不明な点や説明を求めたい部分があれば、質問してください。その後、調査委員長には退席させていただきます。

続いて、資料Bと資料Cについて事務局より報告していただきます。その際、委員の皆さまは県の選定資料なども併せてご覧いただければと思います。

その後で、選定委員、つまりわれわれが調査委員会からの報告や各学校における研究報告、教科書展示会における市民・保護者の意見を踏まえ、各発行者の教科書がどういう評価をされたか、その評価が妥当かどうかを確認し、審議を行います。審議の中で調査委員長に確認したいことなどがありましたら、再度、調査委員長に質問や説明等を求めることができます。先ほどの事務局の説明にもありましたが、審議の際には、これらの資料の中でも教科用図書調査委員会が約1カ月間にわたって綿密に調査研究を実施して作成された資料Aを中心に審議を行い、選定委員会として付け加えたらよいと考える意見や、修正あるいは削除したらよいと考える意見も出していただき、教育委員会に提出する答申書を作成していきたいと思っております。その際、特に意見のなかった内容については、そのまま答申書に記載していくということと考えておりますが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。

なお、答申につきましては、調査委員会の報告等を参考に、選定委員の方々のご意見も加えまして、全ての発行者について特徴等をまとめたものを本選定委員会の答申として作成したいと考えております。文面については、本選定委員会の記録を基に、委員会終了後、委員長の私と副委員長が責任を持って内容を吟味し、事務局に作成を依頼したいと思います。詳細な内容につきましては、委員長に一任ということでよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。では、ご了承いただいたということで、進めさせていただきます。

きます。

3. 種目ごとに審議

(選定委員長) 早速ですが、審議に移りたいと思います。本日は次第にもありますように、保健から順に7種目について審議する予定です。まずは保健についてです。調査委員長にお入りいただきます。皆さま、資料Aの保健のところをお開きになって、お待ちください。

①保健

<調査委員入室>

(選定委員長) 準備ができましたら、ご報告をお願いいたします。

(保健調査委員長) よろしくお願ひします。ただ今より、教科・体育科、種目・保健の教科書の調査結果について報告いたします。保健は5者の発行者について調査しました。調査研究項目は九つありますが、その中でもそれぞれの特に優れた項目を中心にご報告します。各者、ページが多岐にわたるかと思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、東京書籍から順に説明します。東京書籍に関しては、調査研究項目7についてご説明します。3・4年生の教科書の11ページと25ページをご覧ください。また、誠に恐れ入りますが、併せて5・6年生の教科書も手に取っていただき、5ページと29ページをご覧ください。このようにそれぞれの学習の導入時に子どもたちの実生活により近い写真がダイナミックに掲載され、これからどのようなことを学ぶのかという課題意識を明確に持たせることができます。ページの中の写真も鮮明かつ図や挿絵と併せて具体的で分かりやすいものが多く、より確かな理解につながります。また、資料欄の写真や絵も充実しています。関連して、調査研究項目3の視点にもなるのですが、レイアウト、紙面に割く記述欄の配置、スペースが広く、思考・判断・表現活動の充実が図られています。児童ならびに教師の評価活動も教科書を手掛かりに行うことができますし、最後に写真でもう1点だけ付け加えると、5・6年生の教科書の35ページの写真に金沢市の子ども見守りボランティアが掲載されています。

引き続きまして、大日本図書についてご説明します。大日本図書に関しても、調査研究項目7についてご説明します。3・4年生の教科書の21、22、23ページをご覧ください。21ページには、これからどのようなことを学習するかをイメージできる、子どもたちに親しみやすい写真が掲載されています。続けて22、23ページは日常生活を俯瞰した絵となっております。これから学習することが主体的に自分の生活とどのような関係があるか、自分と比べたり、自分事として捉えたりできるようなゲーム性を取り入れた見開きの構成になっています。これはどの単元も同じ構成です。また、さまざまなキャラクターや保健の先生、スクールカウンセラーなども登場し、理解を深めることにつながっております。シールを活用しているのも、本者の特徴です。

続けまして、文教社についてご説明します。文教社に関しては、調査研究項目5についてご説明します。5・6年生の教科書の28、29ページをご覧ください。今日の課題である災害への備えが自助・共助・公助の関係で示されています。また、前のページの27ページをご覧ください。これも現代の身近な健康課題の一つである熱中症への対応について、しっかり紙面を取ってあります。共に発展的な内容ではありますが、どちらもより身近な今日的課題に対して、自分たちでできることを考える工夫がなされています。また、調査研究項目8の内容とも重なるのですが、本市の健康課題の一つである体力増進に関わって、3・4年生の教科書の31ページの下の方には生活習慣と新体力テスト

の関連が示され、発育のためには運動習慣が大切であることが分かるよう、より分かりやすく掲載されています。

続きまして、光文書院についてご説明します。光文書院に関しては、調査研究項目5においてご説明します。3・4年生の教科書の15ページをご覧ください。スマートフォンやタブレットの使い方と生活リズムについて分かりやすく、特に「スクリーンタイム」という言葉を使ってルールを決める大切さを意識付けています。続いて、5・6年生の教科書の29ページをご覧ください。ここでは歩きスマホの危険性を取り上げています。情報化社会に生きる子どもたちが直面する健康課題を分かりやすく取り上げる工夫がされています。それから、3・4年生の教科書の33ページをご覧ください。真ん中の部分です。LGBTについての観点が示されており、共生社会への対応も工夫されています。

続きまして、学研みらいについてご報告します。学研みらいに関しては、調査研究項目9においてご説明します。より授業が適切に展開しやすいような構成となっております。1時間の学習の進め方は「つかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」という学習の流れですが、一つ一つの段階の右側に、さらに学習内容に応じた適切な学習活動が記してあります。例えば5・6年生の教科書の20、21ページをご覧ください。「つかむ」の横の黄色の部分に「ふり返る」とあります。また、次の22、23ページをご覧ください。「けがの発生」の「考える・調べる」に資料を読み取る活動を設定しております。それぞれの学習内容に応じて適切に学習を進める工夫がされています。最後に、31ページをご覧ください。上の方のマークですが、「技能」「友達と」「グループで」といったマークが表示されており、学習を展開する上で大事なガイドとなります。保健を初めて指導する先生にとっても分かりやすく展開できる工夫がなされていると思います。

以上、各者の優れていると考える研究項目を中心に報告させていただきました。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、委員の皆さまからご質問等がございましたら、お願いいたします。

では、先に私から、8番に「金沢市の児童の実情に即し・・・」という項目がありまして、実際、今の実情というか、課題であったり、あるいは逆に良い点であったり、実情についてどういう観点から見られたかというところを具体的に説明いただけますでしょうか。

(保健調査委員長) 金沢市の健康課題には九つの課題があるかと思いますが、それぞれの学校、状況に応じて、課題は若干違うと思います。例えば体力の増進、口の健康、心の健康などの面があります。その中でも、学研の教科書においては、いじめを具体的に取上げたページがあります。16、17ページで心の健康課題を多く取り上げており、昨今の子どもたちの現状からこれは本当に喫緊な課題と捉えています。そこをこのように2ページの見開きにして取り上げているところは学研の特徴かと思い、金沢市の健康課題の一つである心の健康の課題に合うということを調査委員の中で話し合いました。

(選定委員長) ありがとうございます。他に委員の皆さま、いかがでしょうか。

(選定委員) 家庭教育との関連という点で質問させていただきたいのですが、今般、現代的な諸課題という点で、先ほどスクリーンタイムの話もありましたけれども、インターネットを通して流れてくる情報との付き合い方という視点から、性教育の単元がどの程度、どう扱われているかというところが非常に気になった点で、教科書を見させていただきました。この点について、調査研究の中でどの程度そのポイントについて見ていたかを教えていただければと思います。よろしくお願いします。

(保健調査委員長) 具体的にインターネットと性教育を結び付けた話し合いはなされませんでした

が、性教育に関しましては、4年生の保健の内容で同じような内容が取り上げられております。保健の学習で性について、そして保健指導で性教育についてという形で学校では展開されております。

例えば、東京書籍4年生の31ページをご覧ください。ここから始まる学習の中で、性について取り上げた内容がまず記載されています。ここにおいては、各者このような写真であったり、図であったり、いろいろな特徴が表れているところです。

続きまして、インターネットの視点につきましては、先ほども光文書院のスクリーンタイムのお話をさせていただきましたけれども、大日本図書の3・4年生の教科書の17ページ、それから5・6年生の教科書の14、15ページをお開きください。下の方にメールやSNSのことで、ゴリ先生とスクールカウンセラーのやりとりなどがあります。そういった中で、家庭という話題も先ほど出ましたように、家庭においてもこの内容から子どもたちが課題に対して対処できればという内容であると話題になりました。

(選定委員長) よろしいでしょうか。その他、委員の皆さま、いかがでしょうか。

(選定副委員長) どちらの方が使いやすいのかということで教えていただければと思うのですが、今、たまたま開いているのが東京書籍の5・6年生の教科書の42ページと43ページ、それから学研の同じく5・6年生の教科書の30ページと31ページで、けがの手当てとその実習に関わるところを拝見しています。それぞれ具体的な手当ての仕方などが分かりやすく書かれているかと思うのですが、いくつかの者では、東京書籍の42ページのようにフローチャートというか、判断の仕方などが書いてあったりします。実際に実習ができるかどうか、授業の中で実習という機会がどれだけあるかは把握できていないのですが、実際に子どもたちがけがをしたときにどうしようかと考えるときに使いやすいのはどういう形のものなのかということで、ご意見をお聞かせいただければと思います。

(保健調査委員長) どちらも技能という面では、まさに調査委員の中でも学研、東京書籍は実際に話題になりました。保健においては知識・技能というふうにして、今のまさにけがの手当て等は技能という内容が含まれております。そのような中で使いやすいと思うのは、例えば学研の31ページ、東京書籍の43～44ページを調査委員の中で見ながら、どちらも実習としては分かりやすい図ですし、簡単に実践できるということで、甲乙つけがたい部分はありました。どちらも本当にその部分では評価が高かったところです。

(選定副委員長) ありがとうございます。

(選定委員長) ありがとうございます。他に委員の方からご質問はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。調査委員長、ありがとうございました。

(保健調査委員長) ありがとうございました。

<調査委員退室>

(選定委員長) 続きまして、事務局より資料Bの「各小学校における教科用図書研究委員会 調査研究報告書」および資料Cの「教科書展示会に寄せられた市民の意見のまとめ」を報告していただきます。お願いいたします。

(学校指導課長) それでは、資料Bの11ページをご覧ください。「各小学校における教科用図書研

究委員会 調査研究報告書」におきまして、まず東京書籍については、項目2や項目4、項目5において、全発行者の中で最も多くの意見が挙げられておりました。全体の意見の総数は最も多くなっております。大日本図書については、項目2や項目5において多くの意見が挙げられております。文教社についても、項目2、項目5において多くの意見が挙げられております。光文書院については、項目3で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。学研みらいについては、項目1で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられております。全体の意見の総数については、東京書籍に次いで2番目に多くなっております。

続いて、資料Cの3ページ、右側中ほどをご覧ください。市民の皆さまからは、実生活との関連や発達・特性への配慮について意見がございました。また、7ページの左下をご覧ください。移動展示においては、命の大切さについての意見が寄せられております。

以上で報告を終わらせていただきます。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、審議に入りたいと思います。初めに、委員の皆さまにおかれましても各発行者の教科書を約4週間調査していただいておりますので、それぞれお考えがあると思います。ご自身の調査結果を踏まえまして、ご意見をお願いいたします。例えば資料Aの表現の修正等がもしありましたら、それも踏まえまして、また、今の質疑応答の内容も含めまして、ご意見等をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

もし表現等で、評価的などころ、今ほど質問もしていただきましたが、もう少し修正したい部分があったら、あるいは修正というわけではなくて感想・コメント的なものがございましたら、お願いします。教育委員会の方で採択に当たって私どもが報告させていただくときには、この書いてあるところを中心に報告しますが、そういったご意見やニュアンス的なものは口頭で、審議や感想でこういうものがあったということは報告させていただくこともあろうかと思っております。よろしくお願いいたします。

特に質問された委員の皆さまにおかれましては、特に内容について何かございますでしょうか。

(選定委員) そうでしたら、この文章の修正というよりは、先ほどの口頭の伝達事項というか、要望という形で少し加えていただければと思うのですが、見ていて、現代的な諸課題というのがポイントになっているところもあり、教科書に盛り込めないけれども年々どんどん変わっていく問題をかなり扱っている教科ではないかという気がしています。その部分を、その時期その時期の教育内容に盛り込んで、新しいことも含めつつ、言及しつつ使っていただけるとありがたいかなという気がしました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他に委員の方から、ご意見はいかがでしょうか。

(選定委員) よろしく申し上げます。いろいろな調査研究報告書、各学校からの報告書等を拝見して、また、今も教科書を拝見して、やはりトータル的に東京書籍と学研みらいの2者が他者に比べて秀でているように私は感じました。特に項目の1番の基礎的・基本的な知識や技能の習得、また、2番の思考力・判断力・表現力という最も学習の基本となる部分で考えてみますと、やはりこの2者になるのかなと思っています。強いて言うならば、東京書籍の方がやはり項目1、項目2について他者と比べると内容の充実という面で少し秀でているのかなという感想を持ちました。

(選定委員長) ありがとうございます。特に修正等は、このままでよろしいですね。他に委員の皆さん、いかがでしょうか。

(選定委員) 感想でもいいですか。

(選定委員長) はい。お願いいたします。

(選定委員) 私も今の意見とすごく似ていて、東京書籍と学研みらいがやはり子どもの目線で見るときにはすごく見やすく、学習も順序立ててできるなという感想は得たのですが、特に他の教科などと総括的に見たときに、私の子どもを見ていても、日本の小学生・中学生は資料を正しく読み取って伝える力が弱いと思うのですけれども、学研の教科書は資料を読み解くという項目があって、保健の勉強からもっと飛躍できて、社会の授業などでも同じような力につながっていくのかなという点が良かったと思いました。

(選定委員長) ありがとうございます。他、よろしいでしょうか。

そうしましたら、確認させていただきます。報告書Aの内容については、特に修正等のご意見はございませんでしたが、調査委員会の報告書の内容を尊重するとともに、先ほどの市民からの意見に傾聴して、保健における教科書採択の答申をこのように作成してもよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) では、確認していただいたということで、ありがとうございます。

②道徳

(選定委員長) 続きまして、「特別の教科 道徳」について審議いたします。調査委員長にお入りいただきます。

<調査委員入室>

(選定委員長) それでは調査委員長、ご説明のほどよろしくお願いいたします。

(道徳調査委員長) 「特別の教科 道徳」の教科書の調査結果についてご報告します。道徳は8者の発行者について調査しました。それぞれの優れた特色を簡単に説明します。

まず、東京書籍です。5年生の教科書の表紙裏の目次をご覧ください。上の方にオレンジ色の丸いマークが3カ所ございます。この「つながる・広がる」には他教科との関連が明記されています。例えば49ページの「自然を守る取り組み」では、社会科で扱われている空気を汚さない電気自動車を取り上げ、その前までのページでの自然愛護の学習をさらに深め、広く考えられるように工夫しています。このように道徳の学習で学んだことを他教科や生活のさまざまな場面と関連付けを図っているところが特徴となっています。

続いて、学校図書です。5年生の付属ノート「まなび」の19ページをご覧ください。このノートでは、教材ごとではなく内容項目ごとに自分の考えと友達の考えが書けるよう工夫されています。教材「運転手さんのひとこと」と教材「本物のプレゼント」をノートの同一ページで扱うことで、自他との比較だけでなく自分の中での比較もあり、さらに一番左の「つなげていこう」も活用することで、自らを振り返ったり、これからの自分について深く考えたりできるように図られているところが特徴となっています。

続いて、教育出版です。5年生の教科書の10ページをご覧ください。「スキル」や「やってみよう」

では、体験を通して道徳的価値について考えを深められるよう配慮されています。役割演技の活動が具体的に複数提示されており、即興的な表現により登場人物の気持ちを実感したり、自己の行為や感じ方、考え方を再認識したりすることで、多面的・多角的に考えを深めることができるように図られているところが特徴となっています。

続いて、光村図書出版です。5年生の教科書の17ページをご覧ください。下の部分にある「考えよう・話し合おう」では教材に沿って発問が複数提示されています。さらに価値に迫る中心発問がマークで区別して表示されており、自分の考えをまとめ、道徳的価値について話し合い、多面的・多角的に考えることができるよう言語活動の充実の工夫がなされています。さらに「つなげよう」において、より今後の自分について見つめられるよう図られているところも特徴となっています。

続いて、日本文教出版です。5年生の教科書の140ページをご覧ください。「学習の手引き」では、考え話し合う場面や役割演技の場面が数多く設定されています。5年生の教科書では、その他に30ページでも見ることができます。話し合い活動においても、同じ立場同士で話し合ったり、違う立場同士で意見交流したりできるようになっています。このように話し合いを基軸とした問題解決的な学習に取り組むことができるよう工夫されているところが特徴となっています。

続いて、光文書院です。5年生の教科書の表紙裏の目次をご覧ください。命について扱った教材が23、24番に並んでいます。これは全学年において生命尊重を重要項目と位置付け、学年相互の関連が図られて学習できるようになっています。また、教材番号7番、8番の「相互理解、寛容」のように、各学年で特に大切にしている内容項目の教材を続けて学習できるように配列し、深く考えることができるようにして、今日的な課題を含め、系統的に学習できるよう工夫されているところが特徴となっています。

続いて、学研教育みらいです。5年生の教科書の表紙裏の目次をご覧ください。薄黄色で塗られたところが2カ所あります。一つは「いのち」です。生命尊重を全学年での重要項目とし、ユニットとして配列して、複数時間で重点的に指導できるようになっています。もう一つは「ともに生きる」で、高学年2学年くくりで特に集中的に学習する内容項目となっています。低学年は「頑張る生きる」、中学年は「仲良く生きる」が共通テーマとなっています。このように今日的な課題を系統的に学習できるよう工夫されているところが特徴です。

最後に、廣済堂あかつきについてご説明します。5年生の教科書付属の「道徳ノート」の3ページをご覧ください。このノートは学習する内容項目ごとにページがまとまっており、自身の変容や成長を実感できるよう配慮されています。このページは節度・節制について学ぶための教材6「流行おくれ」と33「だれにでもある、こんな心」の学習で使用します。また、ノートの後ろの方には自由に記述できるページもあり、考えを深めたり学習を振り返ったりできるように工夫がなされているところが特徴となっています。

以上、簡単ですが、「特別な教科 道徳」の説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、委員の皆さんからご質問がありましたら、お願いいたします。

(選定委員) 道徳では、自分で考えて、そして議論したりしながら深めていくようなことが大切かと思うのですが、その際に、教科書会社によってはノートを別冊で付けていたり付けていなかったり、いろいろな状況があります。それからノートの書く分量であったり、書きやすさであったり、いろいろな観点で見ることができるかと思うのですが、ノートについてはどのような話し合いがされたのでしょうか。よろしければ、お話しください。

(道徳調査委員長) 別冊ノートを使用しているのは日本文教出版、学校図書、廣濟堂あかつきの3者です。各者ごとに若干の違いがございまして、日本文教出版は結構すっきりしています。また、自由欄があります。ノートのページは教材ごとであり、発問は教材関連のものです。廣濟堂あかつきはすっきりしていて、記述欄も多くありますが、内容項目ごととなっており、発問はその教材文から若干離れた一般的なものとなっています。学校図書については、発問は教材関連となっていますが、こちらはノートというよりも別冊というか、分冊的なことで、内容がかなり膨らんでいるところが特徴です。

他者については教科書の書き込み欄がいろいろ設定されていますが、「議論する道徳」という形においては、自分の思いをしっかりと持つことがまずスタートラインです。そういった面では書く活動というのは、自分の考えを持つという部分においては、子どもたちは自分の考えをはっきり持ちやすいのではないかと考えていますし、振り返るといふ部分でも、書くことで自分の今日の学びを振り返り、また、友達と意見を交流するときにも、自分のいろいろな考えをしっかりと持ったり、気持ちをしっかりと整理したりすることは有効であろうかと思っています。

(選定委員) ありがとうございます。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他に委員の皆さん、いかがでしょうか。

(選定副委員長) 今の質問に関連して、おそらく求めていく道徳の授業像にも結構関連してくるのかと思います。例えば日本文教出版であれば、比較的、教師の方の問いであるとか、そういうものもある程度吟味して、考えさせて書かせるということも必要になってきます。一方で、ある程度の自由度があるというか、教師側の裁量も持てるかと思っています。それに対して、あかつきはかなり具体的な問いになっていますので、ある意味、授業はそのとおりにやれば、一定のところは出るのかなと思うのですが、もしかしたらちょっと面白くないかもしれないと思ったりもします。そのあたりのお考えをお聞かせください。

(道徳調査委員長) これは少し話題に上がったところなのですが、発問を絞り込んで、厳選した発問でじっくり考えさせるというのが、今ほどおっしゃったような日本文教出版の特徴かと思っています。また、複数発問を提示している者もあるのですが、3問ぐらいで中心発問を明示しているところもあれば、発問を並列しているところもあります。ベテランの先生方でしたら、そういう中でもきっちり発問を学習の場面、場面で選択して活用することは可能だと思いますが、若手の先生方であったりすると、やや授業にぶれが生じてねらいにはっきりと到達できないということもあり得るかなということ、議題として私たちが話し合ったところでもあります。

(選定副委員長) ありがとうございます。

(選定委員長) よろしいでしょうか。関連して、そのような別冊のノートがある場合は、それを使うだろうという原則の下に教科書を評価されたのですか。人によっては使うとか、使わないとか、その辺の判断はどのようにお考えになりましたか。

(道徳調査委員長) いろいろな研究会などでも話が出るのですが、先日の話し合いの中でも、ノートを使うことがその授業のねらいを達成するのに良い手段なのか、また、近道になるのかというあたりは話し合いました。ベテランの先生方では、ノートに縛られたり、ノート上の発問に縛られたりすることで、ちょっと授業が窮屈になるとか、今回の教材では使いたくないとか、そういうご意見も出

ていることは事実です。ですから、やはりこれはノートを使用する・使用しないにかかわらず、本時ではこのノートの発問なりノートを利用することが有効なのか、ノート以外の自由記述ができるものやワークシート等を利用する方が有効なのか、それはそれぞれの授業者の責任において選択されるべきだと思います。ただ、先ほども申し上げましたように、道徳の授業の経験があまりない若手の先生方においては、ノートを活用することで一定の教育的成果が安定して得られるのは間違いないと思っています。

(選定委員長) ありがとうございます。委員の皆さま、いかがでしょうか。他にご質問はございませんでしょうか。

(選定副委員長) もう一つ、例えば教育出版は、それぞれなのですが、最後の「深めよう」のところにも結構、価値的な提示があるのかなど。他者は比較的「考えよう」ということで子どもの側に預けているところも多いかと思うのですが、その辺の違いについて何か議論はあったりしましたか。

(道徳調査委員長) 各者ともに「自分の考えをしっかりと」「将来を見つめよう」というような、自分の中でもう一度考えてみませんかという展開で終わっている教科書が多かったように思います。そういった面では、教育出版は、より絞り込んだ項目で考えさせようとしている意図が感じられたのは間違いありません。

(選定副委員長) ありがとうございます。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他に委員の皆さま、いかがでしょうか。

(選定委員) 道徳も評価の対象になる科目に変わったということ踏まえると、他の教科と比べて評価がとても難しいのではないかと単純に思うのですが、評価の仕方というか、評価をある程度統一させていくためにノートがあった方がいいとか、そういうことは教えている側の先生方に何かあったりするのですか。

(道徳調査委員長) 評価は、その子の中でどのように道徳的価値について見つめ、充実した学習の時間を過ごしてきたかということが、道徳の評価になるのではないかと考えています。そういった面では、ノートを活用することはとても有効だと思います。もしノートを使わないのならば、ワークシート等をしっかりとポートフォリオとして積み重ねていき、客観的にも、そして子どもたち自身が1学年や1学期を振り返ったときに「ああ、これだけのことをいろいろ僕は考えられたのだな」「お友達のこんな意見を聞いて、僕はとても勉強になったな」「これからもこんなことを考えていきたいな」といったことを振り返るためにも、ノートやポートフォリオは評価をしていく上で重要なものであると思っています。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他に委員の皆さま、いかがでしょうか。調査委員長、ありがとうございました。

<調査委員退室>

(選定委員長) 続きまして、事務局より各学校の研究委員会報告および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。

(学校指導課長) それでは、ご報告いたします。資料Bの13ページをご覧ください。「特別の教科 道徳」については、各学校における教科用図書研究委員会調査研究報告書の項目は、採択方針に合わせて、他の種目と先ほど申し上げたとおり異なっています。東京書籍については、項目3で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられています。学校図書については、項目5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられています。教育出版については、項目2で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられています。光村図書については、項目3で全発行者の中で2番目に多くの意見が挙げられています。日本文教出版については、項目1、項目2、項目5において全発行者の中でそれぞれ2番目に多い意見が挙げられており、意見の総数は最も多くなっています。光文書院については、項目4で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられており、意見の総数は日本文教出版に次いで2番目に多くなっています。学研みらいについては、項目5で多くの意見が挙げられています。廣済堂あかつきについては、項目1で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられています。

資料Cの3ページの右下から4ページをご覧ください。市民の皆さまから複数の発行者に対してご意見がございました。特に道徳的価値の扱い方や教材についてのご意見が多く寄せられていました。

以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。では、「特別の教科 道徳」について審議したいと思います。答申のための報告書について、資料Aを中心にして、加えたらよいと考える点や修正・削除等がありましたら、ご意見いただければと思います。

(選定委員) 私は、道徳についてノートがあるということは、やはり子どもにとって、自分の考えを書くことで深く考えたり、友達の意見を聞きながら考えを変容させていくという成長の跡も、やはり書くということが授業の中ではとても大切ではないかと思います。そういう意味においては、学校図書、日本文教出版、廣済堂あかつきの3者は、ノートがあるという点で好ましいものがあると思っています。

それで、これら3者のノートを見たときに、やはり授業者の立場として教科書とノートが最も自然な形でタイアップできるというか、自然な流れで授業の中でノートを使っていけるものとしては、日本文教出版は授業に沿った形でノートが作られているということで、先生にとっても、子どもたちにとっても、授業の中でしっかりと教材を通していろいろと考えを深めていけるものではないかという感想を持ちました。

(選定委員長) ありがとうございます。調査項目3で大体ノートのことを調査委員会の方で挙げていただいています。日本文教出版については、今、ご感想を頂きましたが、「工夫されている」という評価の高い文言になっていますけれども、特に今のご感想の方で日本文教出版の方の文言に修正等は必要ございませんでしょうか。ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

(選定委員) 類似しているのですが、子どもたちが一人一人、自分で受け止めたことを励ますような、子どもたちが学んで感じたことを教師が励ます評価をするときには、やはりノートというものがとても大事ではないかと思います。授業での子どもたちの様子や日々の生活の中で一人一人を見取っていくことで、なかなかそこで表出が難しいお子さんもいらっしゃるので、ぜひ心の中を書かせたいと思ったときに、三つのノートがあって、ワークシートというものはやはりきちんと整理してポートフォリオ的にしたいという思いを教師としては持っていますから、まとめた形がいいなと思います。廣済堂あかつきも見えていたのですが、後ろの方にある「学習の記録」は何にでも使えそうで使いにく

いなどと思います。指導者側としては、あまりここに白いページがたくさんあるものも、これは何か少ないなどと思ってしまったりもして、やはりノートを持たせたからには十分に活用したいという思いを持つので、そういったときにはどれが好ましいかなと思って、先ほどから見ています。私も日本文教出版のものが一番だと思いました。どの先生にも使えて、若い先生もこれからたくさんいらっしゃるけれども、一定の教科としての道徳を担保できるのかなと思って、見させていただきました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。特に資料Aの評価に関する調査委員会の文言の修正までは必要ございませんでしょうか。特に廣済堂あかつきの文言など、修正は必要ございませんでしょうか。ありがとうございます。

他に委員の皆さま、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、確認させていただきます。感想も頂きましたが、報告書Aの内容については特に修正等のご意見はございませんでしたので、調査委員会の報告書の内容を尊重するとともに、先ほどの市民からの意見に傾聴し、「特別教科 道徳」における教科書採択の答申書をこのように作成してよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) 確認していただいたということで、ありがとうございます。

③家庭

(選定委員長) 続きまして、家庭について審議いたします。調査委員長にお入りいただきます。

<調査委員入室>

(選定委員長) では、調査委員長から報告をよろしくお願いします。

(家庭調査委員長) 家庭科は2者の発行者について調査いたしました。それぞれの特色をご説明いたします。

まず、東京書籍についてお話いたします。教科書の130ページをお開きください。130ページから139ページにわたる、この巻末の「いつも確かめよう」には、豊富な写真やDマークで示されたデジタルコンテンツの動画を用いて、手縫いやミシン縫い、調理の手順などを実物大で手で確認したり、動画で何度も繰り返し見返したりできるように工夫されています。授業での利用はもちろんですが、家庭に帰って自分一人で取り組む際にも、このページを開くことで、必要なときにいつでも基礎・基本の確認ができます。これにより児童の基礎的・基本的な知識や技能の習得が図られると考えます。

また、教科書51ページをご覧ください。51ページの左下には「話し合おう」というコーナーがあります。学習の途中で話し合う活動が入ることにより、主体的・対話的に学習できるようになっています。続けて、60ページをご覧ください。60ページ中段には「深めよう」というコーナーがあります。この「深めよう」では既習を活用した学びを深めることができるようになっており、どの題材にも「話し合おう」「深めよう」というコーナーが入って、子どもたちに分かりやすく具体的に提示されています。これによりペアやグループで問題解決的に学習が進められるよう工夫されています。

続いて、もう1者の開隆堂についてご説明します。教科書の28ページをご覧ください。28ペー

ジは「なぜ整理・整とんをするのだろう」という問い掛けの言葉で学習が始まっています。104ページをご覧ください。104ページを開いていただきますと、次は「どのようなふくろを、どのように使っているだろう」という言葉で単元の学習が始まっています。これは「児童の気づきや疑問から始まる学習のめあてをつかむ」という活動を重視した金沢市の求める学習スタイルと合致しており、問題解決的な学習が展開できるような構成や工夫がなされていると言えます。児童が明確な課題意識を持った上で学習をスタートすることはその後の学習意欲の継続にもつながり、充実した学習が期待できます。

教科書の23ページをご覧ください。多くの児童がつまずきそうな玉結びのポイントとなる箇所に丸印を付けて、注目できるようになっています。

続けて、27ページをご覧ください。単元の終末に「ふり返ろう」というコーナーが用意されており、これまでの学習で身に着けた知識や技能を振り返り、自己の変容や成長を確認できるように工夫されています。この27ページの「ふり返ろう」の隣には「生活に生かそう」というものもあります。学習したことを生活に生かすよう促しており、学んだことの一層の定着が期待できます。これらのごとにより、基礎・基本の知識・技能の習得ができる、充実した内容となっていることがうかがえます。

以上をもちまして、家庭科の調査報告を終わらせていただきます

(選定委員長) ありがとうございます。では、委員の皆さま、ご質問等をお願いいたします。

(選定委員) 9番の金沢型学習スタイルの観点についてですが、例えば先ほど両方の教科書で紹介していただいた整理・整頓のページがあったかと思えます。その中で、ここは非常に重要だなと私は思ったのですが、これをぱっと見ますと、東京書籍の方は「話し合おう」のところの観点が「困ることと改善策」というような文言になっており、一方、開隆堂の場合は「話し合おう」ということで同じような感じなのですが、「問題点と理由」と書いてあって、やはり「改善策」と「理由」というのはちょっと違うかと思えます。実践につながるのは、「改善策」と書いた方が、今度からどうするのだということ話し合うことになるので、この場面だけを見ると、東京書籍の方が良いように見えますのですが、他の場面でも、その「話し合おう」の場面で、こちらの方がやはり金沢市の子どもたちによりふさわしいのではないかとということがもし話し合われていたら、ご紹介いただければと思います。

(家庭調査委員長) 本当に両者とも、話し合ったり振り返ったりする場面は設けられています。今ほどのご質問にありました、両者を比べて「話し合おう」はこちらが良い、「深めよう」はこちらが良いという議論は、今回、実はなされていませんでしたが、私たち調査委員の方で調査研究項目9番においてはっきり言えたことは、先ほど説明させていただきましたように、やはり子どもたちの疑問や気づきを大事にした学習の流れになっているということで、開隆堂の文言がそれに近いということが分かりました。ただ、「話し合おう」「深めよう」は、東京書籍の方はかなり大判ですし、たっぷりと余裕も取ってあって、たくさんの内容が盛り込まれています。その点では、それを全てすることはできないかもしれませんが、教師の使い次第で、子どもたちにたくさんの視点を持たせて考えることはできると思います。以上です。

(選定委員長) 委員の皆さま、他にいかがでしょうか。

(選定委員) この2者とも、教科書の機能的にはQRコードから動画を見ることができるようになっていると思います。先ほどの裁縫の玉止めや包丁の使い方などは動画で見たら理解がすごく進むかと思うのですが、実際に学校現場でこれほどの程度活用できるのかという点と、それが今回研究をしていった中で評価対象のポイントとしてどういう意見が出たかという点について、お聞かせいただけ

ますでしょうか。

(家庭調査委員長) 先日の調査では、私たちは両者のQRコード等を利用しながら確認しました。どちらも動画になっており、非常に分かりやすいです。授業でも、自分自身が教えているときはあまりこのような動画はなかったのですが、先日も本校の5年生の学習を見ましたら、大型テレビに動画を映し出して、1回で分かる子、経験のある子は見なくてもできることなのですけれども、やはり初めて体験する子、初めてこの学習で出会った子に関しては、本当に動画と自分の手元の間で目を行ったり来たりさせて確認しながら進めていました。今はどの教科書にも動画等のデジタルコンテンツが用意されていますが、非常に有効であると感じています。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

では、私から7番目の項目について、2者しかないのが比較的になるのですけれども、例えば東京書籍の方は、私としてはミシンなどを見た場合に非常に分かりやすいなと思ったのですが、調査委員会の文言としては結構、開隆堂の方が図や挿絵などの評価は良いのかなという気がしています。もう少しその辺の差について説明していただければと思います。

(家庭調査委員長) 東京書籍の方は、A4判で本当に紙面が大きく、資料も豊富です。また、実寸写真も示されています。東京書籍の83ページをお開きください。野菜炒めの学習の際には、このように大きさの目安が実寸写真で示されています。子どもたちにとっては非常に分かりやすいかなと思いましたが、この教科書ではこのページのみでした。もっとたくさん実寸版であるといいのかなとも思いました。

開隆堂の54ページ、55ページをご覧ください。開隆堂の教科書のページは、開くと学習用語が太字で強調されており、分かりやすいです。そして、じっくり見ますと、行が変わるときに分節が途中で途切れないような記述になっています。55ページの上から見ていきますと、1行目は「食品は」という言葉、2行目は「三つの」というふうに文節を区切らずに記述されています。

ところが、東京書籍の方は開隆堂に比べて、文節が途中で途切れない記述になっているとは言えないのかなと思います。例えば東京書籍の82ページをご覧ください。82ページの上から見ていきますと、1行目の終わりは「出てしまう」となっていますが、「そのためには加熱」という部分が、2行目が「加」で終わっていて3行目の頭に「熱」が来ているなど、文節が途切れる形で示されていることが多く、やはり小学生という発達段階を考えますと、文節が途中で切れない方が分かりやすいのかなと感じました。

(選定委員長) ありがとうございます。他に委員の皆さま、いかがでしょうか。

(選定副委員長) いいですか。今、ちょうどその54、55ページなどを開いていたのですが、確かに重要項目が太字で見えるというのは利点なのかなと思うのですけれども、一方でやはり文字量が多いようにも感じます。東京書籍の方の写真や図と文字のバランスを考えていったときに、こちらの方がフォント的にもちょっと見やすいところがあるのかなと感じました。

もう一つは、一方で開隆堂の方も所々、どう言えばいいのでしょうか、フローでいろいろ整理して考えさせるようなものがあったりして、最近のシンキングツールのものを使って整理させようというところも若干特色としてあるのかなと思ったのですが、その2点について何かお話には出ましたでしょうか。

(家庭調査委員長) シンキングツールということでは、今回、私たちの方では特に議題にしていま

せんでしたが、先ほどはこの2者の教科書を比べて、文言の書き方のみの説明になってしまいましたけれども、実は写真や絵なども開隆堂の方が少し見やすいのではという意見を我々は持ちました。

先ほど紹介させていただきました、開隆堂の22、23ページをご覧ください。こちらの教科書は元々白い紙面に印刷してありますが、子どもたちにとってこの手縫いの部分が少しでも分かりやすいようにという配慮か、白の上にピンクの背景を作り、その上に写真を載せてあります。それによって、この部分が浮き上がって強調されて見えるように思いました。

また、24、25ページにボタン付けのページがございますが、こちらは両者とも比べましたけれども、開隆堂は布の色や糸の色など、コントラストが非常にはっきりしており、子どもたちにとっては分かりやすいのではないかという意見は挙がっていました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。

(選定副委員長) そうですね。確かに図のところ等のコントラストはかなり意図的に差を強くつけてあるので、そういう意味では非常に見やすいのかなというところは私も感じました。ありがとうございます。

(選定委員長) 他に委員の皆さま、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、調査委員長、ありがとうございました。

<調査委員退室>

(選定委員長) 続いて、事務局より各学校の研究委員会報告および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。よろしくをお願いします。

(学校指導課長) 資料Bの10ページをご覧ください。各学校における教科用図書研究委員会調査研究報告書において、東京書籍については、項目1は開隆堂よりも多くの意見が集まっています。開隆堂については、項目2～5で東京書籍よりも多くの意見が挙げられており、意見の総数も多く挙げられているという状況です。

続いて、資料Cの7ページ左側をご覧ください。市民の皆さまからは、持続可能な社会や環境に関するご意見が寄せられています。

以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。では、家庭について審議したいと思います。答申のため、報告書に付け加えたらよい意見や修正・削除したらいいと考える意見などがありましたら、お願いいたします。いかがでしょうか。ご質問いただいた内容に関しても、何か修正あるいは付け加え等は特にございませんでしょうか。感想も含めてどうぞ。

(選定副委員長) どの教科もそうなのですが、デジタル教材も併用するパターンが随分増えてきています。特に図工や家庭科などの実技のものになると、例えば各グループや個別にタブレットがあって、繰り返し動画を見ながらやってみるということがきっとこれから求められてくるというか、そのことによって技能的にもより補完されるようなところがきっと出てくるのかなと思います。そういう意味では、そういった学習が十分に行えるような環境の整備も併せて行っていく必要があります。次の指導要領、教科書のときには学習者用のデジタル教科書等も併せて徐々に入ってくることになるかと思っておりますので、そこについての配慮も頂けるといいのかなと感じながら、今回、見させていただいてい

ました。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

私の方で、後で気がついたのですが、調理などをする場合に、教科書が結構大きくなっているのですけれども、見ながら調理しているのか、家庭科室や調理室でやるのでしょうか、場所的にどうなのかなと思ってしまったもので、調査委員長にもう1回聞いてもよろしいでしょうか。細かいことで申し訳ありません。実際にどのようにして調理のときはやっているのかということで、頭に入れてしまっているとか、あるいはプロジェクターで提示しているということもあるのかもしれないけれども。調査委員長をお呼びしてその点を確認させていただいてもよろしいでしょうか。

<調査委員入室>

(選定委員長) 一つご質問がありまして、例えば東京書籍の方を開きますが、このように教科書に手順が書いてありますけれども、実際に子どもたちが調理をするときに教科書を置いて調理するのか、頭に入れておくのか。結構大判だったりしますよね。その使い方について、いま一度説明をお願いします。

(家庭調査委員長) 今の質問にお答えいたします。調理の際は何しろ火を使いますので、必ず机の上の教科書やノート等は全て仕舞った状態で調理を始めます。では、この写真等はいつ使うかということですが、調理の計画の際にしっかり写真や動画で確認した上で、調理当日は、本校や自分の実践で言うと、前の黒板やホワイトボードに写真等で手順を明示しておきまして、子どもたちが困ったら前を見て確認する程度で実習ができるように準備している授業が多いです。

(選定委員長) ありがとうございます。よろしいでしょうか。調査委員長が入られましたので、他に付け加えて質問はございませんか。よろしいですか。ありがとうございました。

<調査委員退室>

(選定委員長) 他に感想も含めまして、ございますでしょうか。

(選定委員) 授業者としてこの教科書を見た場合、開隆堂はページのところにきちんとQRコードがあるのですが、東京書籍の場合は5ページのところに示してあるだけなので、経験が浅い授業者にすれば、開隆堂の教科書の方がその時々でぱっとQRコードを指導の参考にしやすいと思います。あまり家庭科が得意でない先生にはこちらの方が親切なのかなと感じました。感想です。

(選定委員長) ありがとうございます。特に修正等までは必要ないでしょうか。他にございませんでしょうか。

そうしましたら、確認させていただきます。先ほどご感想も言っていただきましたが、報告書Aの内容については、特に修正等のご意見はございませんでしたので、調査委員会の報告書の内容を尊重するとともに、先ほどの市民からの意見に傾聴し、家庭科における教科書採択の答申書をこのように作成してよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ご承認いただいたということで、ありがとうございます。

一度、休憩を入れたいと思います。10分ほど休憩し、50分ぐらいから再開しますので、よろしくをお願いいたします。

<休憩>

④国語

(選定委員長) それでは国語の方を審議させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。調査委員長、ご報告をお願いします。

(国語調査委員長) ただ今より、国語科の教科書の調査結果について報告します。国語科については4者の発行者について調査しました。それぞれの特色を説明します。

初めに東京書籍です。東京書籍は1の項目について、国語科における付けたい力である基礎的・基本的な事柄が繰り返し強調されています。「言葉の力」として単元の初め・終わり・巻頭に明記されています。2年下の48ページをご覧ください。「お手紙」という物語教材ですが、単元の始まりには、このように読んだ感想を伝え合う言語活動が示され、そのために「言葉の力」、星印のところですが、「自分と比べて読む」という指導事項が示されています。

これは導入でしたが、学習を振り返る視点として63ページをご覧ください。63ページには再度、「言葉の力」として星印で、「自分と比べて読む」ということが示されています。さらに、教科書の巻頭の6ページをご覧ください。「読む」のところで、2年生でこれから学習する「言葉の力」が領域ごとに示されていますが、今の「自分と比べて読む」ということもこの最初に提示されています。さらに、この学んで付いた力が、6の項目である学年相互の関連として今の「比べて読む」ということが3年上の教科書の162ページに、必修事項として2年生では「自分と比べて読む」ということを学んでいることを確かめることができるように工夫されています。このように、付けたい力を年間を通じて確認していくということで、付けたい力が大変明確に示されています。

続いて、学校図書に移ります。学校図書については児童の興味・関心が高まる学習活動が工夫されています。2年上の74ページをご覧ください。物語教材です。74ページには「おはなレクイズ大会」ということで、物語文を読む目的としてクイズ大会を設定しています。クイズの問題を作る視点として、低学年指導事項の登場人物の行動や会話に着目して問題を作る、そしてその訳を考えるように児童に働きかけます。

このような子どもたちがワクワクするような学習活動を組んであります。高学年においては5年生の80ページをご覧ください。「注文の多い料理店」という長文の教材です。これについては物語の人物が答えます。先ほどと逆ですが、こういうゲームを通して、作品の暗示的な文や人物の疑問に思う行動について、根拠を持って回答することなど、子どもたちが必要感を持って学習する場が期待できます。

また、話す・聞く領域では、3年下の22ページも大変興味深い学習活動ですが、ミニギャラリーの解説委員になったつもりで、絵について根拠を示しながら想像したことを解説するという楽しい学習活動の中で力が付く工夫がされています。

次に教育出版に移ります。教育出版は図や表、写真などが大変豊富に示されて、全体的に大きく掲載されていて、児童が学習内容を的確につかんだり想像を広げたりするように工夫されています。例えば、2年上の79ページをご覧ください。これは「きつねのおきやくさま」という物語ですが、この物語の山場となる場面では、1ページを使っての挿絵を入れ、きつねの勇気と結末に思いを膨らませる一助となっています。同じく2年生の126ページでは、事柄の順序を写真で比べる。この2枚

の写真を基に中を想像するという学習活動を行い、どの児童も学習に参加できるように工夫されています。

高学年では6年上の50ページをご覧ください。他の発行者に比べて説明文の内容が少し難しい内容になっていますが、それを補完する図が適宜示され、エネルギーを生み出す仕組みに児童は興味を持って、より進めることができます。

最後に光村図書です。光村図書は、2番目の思考力・判断力・表現力を育む点について優れているといえます。全ての単元において、単元のゴールとなる言語活動が設定されて、児童が見通しや目的意識を持って活動の中で思考し、付けたい力が身に付くように工夫されています。

3年上の47ページをご覧ください。「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」、この2教材により、初めて知ったことへの感想を伝え合おうという言語活動が設定されています。感想を伝え合うための見通しとして、56ページでは見開きによって見通しが示されて、段落相互の関係に注意しながらそれぞれのこまの特徴や楽しみ方を見つけながら読み、自分の考えをまとめ、交流して広げるという展開が大変見やすく示されています。また、感想を交流する際の深まる視点として、下の3番に、伝える際の型、感想を伝え合うときの例というふうに、伝える型が、そして聞き方が吹き出しで示されるなど、9項目の金沢型学習スタイルに基づく学習の流れと合致しています。さらに「振り返ろう」では、新学習指導要領における3観点、「知識・技能」「思考・判断・表現力」「学びに向かう力、人間性」に合わせた三つの観点で、できるようになったことを振り返られるように工夫されています。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは委員の皆さまからご質問をお願いいたします。

(選定委員) 9番の金沢型学習スタイルに基づく観点は、ここに書かれているものはペア・グループで交流したりすることが書かれていると思います。どの教科書会社もグループやペアのことについて言及されていますが、ここを読みますと、それぞれの良さがあると思います。光村図書は、こういうことがあって工夫されているという、最後はそういう文言になっていて、他は配慮されているとか、示されているだけというふうに読めたりもするのですが、この観点でいくと、いろいろな良さや弱点的なところもあるかと思います。このことについてもう少し詳しく説明していただけますか。

(国語調査委員長) どの発行者も、学びの中でペアやグループを取り入れてという学習活動が示されています。その中で光村図書については6年生の135ページに、グループで話し合うために話し合いの目的が大切であるということが示されて、さらに197ページには、別の単元になりますが、話し合いの手順というものが分かりやすく説明されています。それぞれの単元において、話し合いの目的を明確にしたり、それに応じた話し合いの手順が明確に示されているという点で、特徴として優れている点が表れているかと思います。

(選定委員) 分かりました。ありがとうございます。

(選定委員長) 他にいかがでしょうか。では、私から。調査項目の8になりますが、金沢市の児童の実情を、国語の問題点や逆にいい点も含めて、その点についてはどのように捉えられながら、この項目について調査されたかについてお願いします。

(国語調査委員長) まず問題解決的な学習として、単元を通して児童が見通しを持って学んでいくことが金沢市では大切にされていると思います。そういった点で、一つの単元を丸ごと捉えて、どういう目的で学ぶのか、どういうゴールに向かって学んでいくのかということなどをどの学校も大切にしていると思います。その点で、国語科においてももちろん付けたい力はあるのですが、その付けたい

力を付けるためにどういうゴールに向かって学習しているかということが明確になるような学習活動が組み込まれているものという視点で見てきました。

(選定委員長) ありがとうございます。他の委員の皆さまはいかがですか。

(選定委員) 内容というよりも教科書の構成と評価について質問したいのですが、発行者によって高学年の教科書が上下巻に分かれずに1冊になっているものと、分かれているものがあります。先ほどの説明の中で、東京書籍の場合は上下巻のつながりや3年生の教科書で2年生に読んだことという形で言及されているなどして、別の教科書、別にまとまっているところを参照するような記述もあるかと思います。このあたりは、学習授業で使うときの使い方としてどちらが使いやすいとか、どのように活用していくことを想定しているとか、そのあたりの編集の構成と授業での使いやすさのようなどころでの視点では何か評価はありますか。

(国語調査委員長) 5・6年生が東京書籍、光村は1冊にまとまっていて、その他の発行者は分冊になっており、1年間の見通し、1年間で付けたい力を常に確かめながらという点では、1冊にまとめられているという利点はあると思います。ただ、他の発行者も既習の振り返りという点では工夫して掲載されていますので、さほど支障はないかと思います。ただし、1年間を通してどういう学びを得たか、特に光村図書は中学校に向けて小学校の最後である6年生の学びを振り返る単元があって、自分で1年間学んできたことをずっとたどるページがあります。そうすると、合冊での利点はあると思います。ただ、重いです。

(選定委員) 先ほど東京書籍の特徴として、「読む」とか「書く」という、一つ前の学年でやったことを振り返るような形のものをうまく活用していこうとすると、全学年の教科書を持ってきて説明するという使い方になるのですか。

(国語調査委員長) 特に前の学年の既習を使っていくことになります。ですから、光村図書も東京書籍も、前学年の学びは明示されています。あと、前単元でこういう学びを獲得しているということも示されています。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 4者ともそれぞれに工夫されているかと思うのですが、トータル的に見て東京書籍と光村図書の2者が秀でていると私は感じました。特に、強いて挙げるなら、東京書籍、光村図書それぞれの秀逸な部分や課題をどのように考えているか、お聞かせいただければと思います。

(国語調査委員長) 東京書籍、光村図書ともに、付けたい力が大変明確に示されていて、学習の見通しという点でも、どちらも甲乙付け難い部分があります。新学習指導要領の内容の改善点として、読書指導、子どもたちが読むことを通して多くの本に触れていく、学校図書館の活用というところは、金沢市の施策とも大きく関連しているところで、子どもたちがどれだけたくさん本と出会って、そこから学ぶかという点では、単元ごとにどの発行者も本はもちろん紹介しています。この学びをきっかけに、どういう力でこの本を読んでいけばよいかということが示されているのが光村図書です。2年生の巻末の143ページで示している本の紹介にしても、左の方にはこのように読んだことを基に友達と意見を交換したり本を楽しんだりすることができるという言語活動が示されていて、読書に親しむという点でも光村図書は大変工夫されていると思います。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。それでは、調査委員長、ありがとうございました。ご退席いただいて結構です。

<調査委員退室>

(選定委員長) それでは続いて事務局より、各学校の研究委員会報告および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。よろしくお願いいたします。

(学校指導課長) それでは報告いたします。資料Bの1ページをご覧ください。各学校における教科用図書研究委員会調査研究報告では、東京書籍については項目1で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられ、意見の総数も2番目に多くなっています。学校図書については、項目1に多くの意見が挙げられています。教育出版については、項目5に多くの意見が挙げられています。光村図書については、項目2、3、4、5で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられ、意見の総数も最も多く挙げられているという状況です。

続いて、資料Cの1ページ右側をご覧ください。市民の皆さまからは写真やイラスト、学習の系統性についてのご意見を頂いています。同じく資料Cの6ページ右側をご覧ください。移動展示においては、学習活動の工夫や内容、文字や挿絵などについてのご意見を頂いています。

(選定委員長) ありがとうございます。国語について審議したいと思います。答申のための報告書に付け加えたらよいと考える意見修正、削除がありましたらご意見などを頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。感想も含めて結構です。

(選定委員) 先ほど調査委員長からも話がありましたが、多読への子どもたちの誘い方が光村図書はうまいと思います。私は子どもの力というか、学習指導要領の3観点、「知識・理解」「思考・判断、表現力」「学びに向かう力」などの部分について、それぞれ单元ごとに振り返ろうという項目があって、子どもに分かりやすい言葉で常に明記されているということで、しっかりと「言葉の力」というものを着実に積み上げて定着していこうという配慮や工夫が光村図書にあると思っています。

東京書籍も同じような配慮はあるのですが、光村図書の方がより具体性があり、子どもにも分かりやすくなっていると思います。併せていろいろな活動、学び方の具体例も、先ほど話し合いの部分で調査委員長が言っていたのですが、「話す」「聞く」であるとか「書く」こと、説明文、物語文などの学び方についても、随所に、子どもにとって分かりやすい流れがそれぞれの学年で明記されていることを考えたときには、光村図書がトータルの秀でていているという感想を持ちました。

(選定委員長) ありがとうございます。他に感想がありましたら、ご意見も含めてありましたら、お願いします。

(選定副委員長) 私もこの中で選ぶとしたら東京書籍か光村図書と感じています。光村図書は、教材もこれまで見慣れたものが多いので非常に入っていきやすいのですが、年々非常に意欲的になっているというか、良く言えば付けたい力をかなり前倒して、特に後ろの付録で述べているように、そういう意味では欲張っている部分があると思います。市民の方からのご意見でもありましたが、力量が結構問われる部分が光村図書はだんだん出てきていると感じます。

一方で東京書籍は、そのあたりは比較的抑え気味の記述が多いのと、従来からの国語としての付けたい力に絞り込んでまとめた記述があるように感じられました。そのあたり、いずれの教科書も特徴

としてあるので選び方が難しいところなのですが、結構しっかりと授業が変わってくるというか、国語の中で付ける力を光村図書でもしっかりと打ち出されている分、それに対応した授業を行っていくことが求められるという意味では、ある種、高いレベルを求めている側面があると感じました。現場での研修なども継続してやっていただく必要があると感じました。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 今、高いレベルの授業というお話があって、本校も国語を中心に頑張って職員と取り組んでいるのですが、東京書籍と光村図書にあるように、どんな力を付けるためのこの物語文や説明文だったのかということがしっかりと明記されている教科書を用いて学習することで、その物語を読んで味わっただけで終わるとか、説明文の「ふーん、そうだったのか」というような平べったい学びで終わらないようにと、意識できます。他の物語や説明文に生かせるような付けたい力を、若い教師も念頭に置いて授業をしていかないといけないので、それがしっかり出ている方が授業としてはぶれなくていいと思います。また、巻末にそういうものがまとまっていることで、それをもう一回手引きにしながらかんがねることができて、授業の質をこれからますます高めていくことにつながると感じながら見させていただきました。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがですか。

(選定委員) 今言われて、巻末にそういう機能があることを初めて知って、改めてそういう視点で見るとものすごく違いがあるというのを驚いているところです。逆にそれが今、質問になるのかどうかですが、これは授業でどの程度触れられる項目なのかという点を改めて質問させていただきたいと思います。

<調査委員入室>

(選定委員長) 光村図書などは非常に充実しているというふうに私も見ました。教科書の後ろに、資料として結構たくさん書かれているものがあります。そういうものの活用の仕方というか、実際にどのように現場で使われているかということをお聞かせください。

(国語調査委員長) 巻末の付けたい力や解説のまとめ、あとは「言葉の宝箱」など、この学習を広げようという付録の部分は、普段の授業の中でも使います。語彙を広げるときにはこのページを開いて、自分の思いに合った言葉を見つけようとか、「たいせつ」を改めて後で振り返ったり、既習をもう一度振り返ってみたりということで、最後だけで使うのではありません。単元の中で使っていきます。

(選定委員長) よろしいでしょうか。

(選定委員) 現状の授業でこの活用はどのような状況なのか教えてください。

(国語調査委員長) 光村図書は、現行の教科書をこのような付録の形で最後にまとめて、解説のまとめや「言葉の宝箱」は掲載されています。それを指導者がうまく活用していかなければならない部分でもあります。使わなければもったいないページかと思います。

(選定委員) 授業で使っているケースの方が多いのですか。

(国語調査委員長) はい。使っているケースが多いです。また、授業研究でも、こういうページを使うように推奨しています。

(選定委員) 5・6年生の最後を見ていると、インターネットで調べようとか、プレゼンテーションについてという項目があるのがすごく新しいと思って、ここでそういうことをするのかというのは驚きでした。このあたりは環境によってはできたりできなかったりというのもあると思うのですが、今後どのような活用になっていくかについては、今回の評価点として何か話し合われたのでしょうか。

(国語調査委員長) インターネットの活用という点では私たちの議題には挙がっていなかったのですが、情報の扱い方ということが国語の新しい指導事項として挙がってきています。インターネットを使う使わないではなく、情報をどのように分類したり自分に取り入れたりしていくかという点では、光村図書は年間を通じて幾つかのコラムのような形で挟み込んである点では、ネット環境の有無にかかわらず、そういった部分は十分に学習で使えると思っています。

(選定委員長) よろしいでしょうか。調査委員長が入られましたので、何か他に聞きたいことがありますか。

(選定副委員長) 追加で質問させていただきます。同様のところを私も興味を持って見させていただいていました。後ろの付録の、6年生254ページのシンキングツールなどは、5年生にも同様のページが割かれています。多分、このあたりをしっかりと国語でも学びながら他の教科で活用していくことで、言葉を基にして他教科とつながって力を付けていくことがかなりイメージできると思います。今もある程度は使われているとは思いますが、今後さらに重点的に指導できるかというところが大切になると思います。先ほどの言葉のところと言うと、東京書籍も思考に関わる言葉ということで、例えば6年生の268ページなどでしっかりまとめられていて、言葉を使ってしっかり考えて交流していくようなところを意識されていると思います。

そういう意味では、国語の教材を通して付けなければいけない力が随分変わってきているというか、そういうところは光村図書の教科書などは意識して記述されていて、そのあたりの対応が大変ではないかと思うのですが、いかがでしょうか。していかななくてはいけないところだとは思いますが。国語の授業の中でベテラン先生も含め、しっかり活用されているのかというところを教えてくださいたいと思います。

(国語調査委員長) 活用していかなければならないと思っています。確かに語彙を増やすという点で、教育出版以外ほどの発行者も巻末にまとめて載せています。東京書籍の面白いと思ったところは、東京書籍は普段の授業で使うのはもちろん大事なのですが、「言葉集め」というページがあって、そのページを学ぶことで、必ず後ろをめくるということを働き掛けられるページが工夫されています。

(委員長) ありがとうございます。他はよろしいでしょうか。そうしましたら、調査委員長、退室していただいて結構です。ありがとうございました。

<調査委員退室>

(選定委員長) 他はいかがでしょう。感想、ご意見も含めてよろしいでしょうか。では、確認させていただきます。ご感想、ご意見を頂きましたが、報告書への内容については特に修正等の意見は

ありませんでしたので、調査委員会の報告書内容を尊重するとともに、先ほどの市民からの意見に傾聴し、国語における教科書採択の答申をこのように作成してもよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。ご承認いただいたということで、それでは続いて書写について審議させていただきます。調査委員長にお入りいただきます。

⑤書写

<調査委員入室>

(選定委員長) よろしいでしょうか。では、調査委員長の方から報告をお願いします。

(書写調査委員長) 国語科書写についてご説明させていただきます。3年生を中心に、5者について説明いたします。

最初に、東京書籍についてご説明申し上げます。東京書籍の3冊ページの見開きのところをご覧くださいいただけますでしょうか。調査研究項目1、基礎・基本についてお話しいたします。ここには1年間に学んでいく書写の技能を、「書写の鍵」として示しています。1年間で、こういう書写の鍵を解く旅を進めていくという形になっています。1年間の学習の見通しを持ち、ワクワクしながら学習を進めていくことができるものと思っています。

これは各教材に連動しています。13ページをご覧くださいいただけますでしょうか。各教材にはインデックスが示されていると思います。最初の見開きにインデックスがありまして、今こういうところを学習しているのだということがはっきりと分かるものになっています。44ページをご覧くださいと、1年から3年まで学習する書写の鍵をまとめてここに示してあります。このように、1年間で何をしていくか、今何をしているのかということがはっきりと子どもたちにも分かるものになっています。これが東京書籍の大きな特徴と捉えています。

次に、学校図書をご覧ください。同じく3年生の教科書の14ページをご覧ください。「生かして書こう」というところがあります。研究調査項目の2では、硬筆活用ができていくかどうかということを見点にしながら調査しました。学校図書については、教材ごとに硬筆の活用ページがこのように豊富に設けられています。現在、毛筆は毛筆学習にとどまらず、硬筆にしっかりと活用していくこと、全教科の学習に生かしていくことはもちろん、実生活へ毛筆を生かした硬筆活用がされていくことが求められています。学校図書ではそれを強く意識しており、一つの大きな特徴になっています。ここにも「自分が通っている学校の名前を書こう」と左側にありますが、他にも自分の名前、友達の名前、好きな学校行事を書こうとか、実生活を意識しての題材選びがなされています。こういう硬筆活用の充実が学校図書の大きな特徴となっています。

次は教育出版についてです。3年生の21ページをご覧ください。「レッツ・トライ」コーナーというものが設けられています。調査研究項目5、各教科との関連について、21ページには暑中見舞いの書き方、次をめくっていただくと、原稿用紙での書き方、そして23ページには図画工作での展覧会作品カードの書き方と、各教科や普段の生活との関連・活用が促されるものとなっています。また、「レッツ・トライ」には、お店見学のお礼状の書き方など、各教科との関連の充実が、教育出版の大きな特徴の一つと捉えました。

次は光村図書についてです。3年生の12ページをご覧ください。ここは調査項目1、基礎・基本、そして調査項目の7、図版等や書体における印刷等についてお話しいたします。ここで目を引くのが、

12ページの右下に「たいせつ」という欄が青抜きであるのが分かりますでしょうか。各教材で学習する大切な技能ポイントを「たいせつ」として分かりやすく書かれています。これは位置も決まっており、各教材の右下に青で抜いて書いてあります。これは、ページを開いていて大変分かりやすく、これがポイントなのだというふうに見やすくなっています。

また、12ページにお戻りいただいて、字を赤く塗ってあるこの書体の方をご覧くださいませでしょうか。筆使いにおいても、穂先の位置がしっかりと示され、運筆の分かりやすさ、留意点への配慮が一目瞭然でシンプルで分かりやすい。始筆、送筆、終筆では、キャラクターがありますが、「トン、スー、トン」というふうにイメージを伴って子どもたちが空書きをしたり、なぞり書きをしたり、楽しみながら学習を進められるものとなっています。また、実はこのキャラクターが、表紙のところを見ていただくと、3年生ですがシールになっていて、これを友達同士の作品に貼りながら、「トンができたね」「スーができたね」と言いながら、楽しみながら学習を進めていけるものとなっています。シンプルで分かりやすく、子どもたちが楽しんで友達と関わりながら技能を習得していけるところが光村図書の大きな特徴と捉えました。

そして最後となります日本文教出版の方をご覧ください。これも3年生でお話しします。12ページをご覧ください。調査研究項目1です。12ページには、大切な書写の技能を電球マークで真ん中に黄色で囲っています。特に大切な点は赤字で分かりやすく目立つように、書体もここは変えています。これも一目で分かる工夫がされています。位置はそれぞればらばらではありますが、全体の色使いは明るくて、パンダのキャラクターが、書字のポイントや良さを語るなどして示されています。文教出版はこのように、大切ポイントを一目で分かりやすく示しているところが大きなポイントになるかと思っています。以上、簡単ではございますが、五つの発行者についてお話しさせていただきました。

(選定委員長) ありがとうございます。では委員の皆さま、ご質問等お願いいたします。そうしましたら私の方からお願いします。学年によっても違うと思うのですが、先ほども硬筆と毛筆のお話が少し出ましたけれども、実際、時間の割合的には今どんな状況というか、この新しい教科書でどんなふうになっているのでしょうか。

(書写調査委員長) このことについては、調査項目の8になります。金沢ベーシックカリキュラムでは毛筆を30時間確保していくことになっていますので、それが網羅できているかできていないかというところが大きな論点となりました。東京書籍、教育出版、光村図書、日本文教出版は30時間確保されていますし、学校図書の方は確保できるように配慮されているというふうにご捉えていただければいいと思います。以上です。

(選定委員長) 実質的には硬筆と毛筆はどれくらいの割合でやっておられますか。それで、今後将来的にはどういう方向なのかを教えてください。

(書写調査委員長) まず、今現在も毛筆学習は30時間確保というのが絶対条件です。そこは確保されていますし、今後については、1年生の教科書には、1者を除き水書板が入っています。毛筆の特徴、はらいやはねをしっかりと1年生のうちから身に付けていただきたいということで、毛筆を大事にしながら硬筆に転化し、硬筆は毛筆にまた戻っていくことが大事にされています。

(選定委員長) ありがとうございます。委員の皆さま、他にいかがでしょうか。

(選定副委員長) 3者にデジタルの教材、QRコードを読み取ったりURLを打ち込んで、運筆な

どを見せる動画の教材があったかと思うのですが、その辺について検討されたか、あるいは実際に活用されているのかというところはいかがでしょうか。

(書写調査委員長) 正直、そのところは実際論議しているところで、実際まだ見てということではできなかったのですが、活用していきたいという話にはなったのですが、どの程度活用されているのか、活用できそうかについては、十分な議論はできておりません。

(選定委員) 全く同じ質問が頭に浮かんでいて、今ちょっとこれを見ながら実際に読み込んで映像を見たりしていたのですが、他の教科も同じ傾向があったり、あとは家庭科のように実技が伴うものは非常に動画での説明のコンテンツが優れているところがあったりというのもあって、書写に関してはそのままそのページからそこに書かれているものの筆使いなどを映像で見られる光村図書などの教科書がある一方で、そのあたりのつながりがものすごく取れていないものもあったりということで、その辺をどう活用するかによってはポイントが結構変わってきているのかなと思いました。今の、いい特徴がいろいろあるという話の中で、工夫を各者されているのですが、デジタルコンテンツに関しては、こちらで見た感じでは光村図書がストレートに動画が見られて、活用しやすい感じになっていた印象があったので、そのあたりも含めて見てみていいかなという気がしました。

(選定委員長) 他にいかがでしょうか。

(選定委員) 私の職場でも、自分で書写は苦手だなという先生はそういうものを使って子どもに見せている先生もいます。ただ、水書板を新しく幾つか買ったのですが、先生自ら大きな筆を握り、子どもの前で書いて見せる授業もあって、そのような授業はやはりいいなと思います。必要などころでうまく使っていけばいいのかなと思います。

私は、毛筆30時間で学んだことを硬筆に生かすのはものすごく大事だろうと思うのですが、例えば学校図書のように、「生かして書こう」というページがあっても、毛筆をして片付けてからこういうところまで45分の中でするのは難しいのかなと思います。そうなってくると、どういう場でこういうことが活用できるのか、もしこういう教科書を用いるときにはまた考えていかなければいけないということを思って見ていました。ただ、書写で学んだことはいろいろな教科の中で書くときに使っていけばいいと思いますし、またそういうところを採用された教科書を基にしながら工夫していきたいと思って見させていただきました。

(書写調査委員長) 調査研究でもそのあたりは出てきていました。硬筆を最初は試し書き、そしてまとめ書きというのがあるのですが、これは時間内に終わるだろうかとか、そういう論議もされました。

(選定委員長) ご質問等いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、調査委員長、ありがとうございました。ご退席いただいて結構です。

<調査委員退室>

(選定委員長) 続きまして事務局より、各学校の研究委員会報告および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。

(学校指導課長) ご報告いたします。資料Bの2ページをご覧ください。各学校における教科用図

書研究委員会調査研究報告書では、東京書籍については項目1に多くの意見が挙げられており、項目2では、全発行者の中で最も多くの意見が挙げられている状況になっています。学校図書については、項目3で全発行者の中で最も多くの意見が挙げられていました。教育出版については、項目1が全発行者の中で最も多くの意見が挙げられています。光村図書については、項目2、4、5において、発行者の中で最も多くの意見が挙げられており、意見の総数も最も多く挙げられている状況です。日本文教出版については項目5に多くの意見が挙げられています。

続いて、資料Cの1ページ、右側をご覧ください。常設展示においては、低学年の学習内容についてご意見を頂いています。6ページ、右側をご覧ください。移動展示においては、教科書のイラストについてのご意見を頂いています。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。そうしましたら、書写について審議したいと思います。答申のための報告書に付け加えたらよいと考える意見や修正、削除したらよい点など意見を頂ければと思います。ご意見がなければ、感想等も含めて何かございますでしょうか。

(選定副委員長) 今ほどもご質問させていただいたことと関連してなのですが、やはり今後は、デジタル教材の活用も含めて何らかの記述があるといいというふうに思いました。書写については、もちろん実技で示していくことが一番望ましい方法ではあると思うのですが、一方で最近、教師も最初にまずやってみせて、その後、電子黒板等にずっと流しっ放しにして、流しながら教師が個別の指導に当たるような授業の仕方なども最近見ることが多くなってきています。そういう意味では、ICTの併用を視野に入れた指導の仕方についても、今後また次回以降のところで検討項目として入れていただけるといいと感じました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。項目で現在のところ、少し修正したらいい部分などはございますか。私も今、項目を確認させていただいて、書写に限らず、先ほどから動画やデジタルコンテンツなど教科書に付随しているような部分は今後検討していこうということですか。

(選定副委員長) 書写のところだけに関連して言えば、7の挿絵、写真および図等というところが近いのかなと感じました。他のところには入っているケースもあったのかなと思います。

(選定委員長) 付け加えや修正などはちょっと入りにくいですかね。

(選定副委員長) 書写については検討されていないということでしたので、今から入れるのはちょっと難しいかなと判断しました。

(選定副委員長) 多分、その次の採択に当たっては、先ほど私がお話したように、教科書にプラスアルファの、動画、デジタルコンテンツといったものがかなり入ってくるので、採択に当たっている複雑な要素が入り始めているのだなというふうに、ちょっと感想ですけれども思っています。

(選定委員) 教科書にQRコードが示されているのが光村図書だけということもあるのですが、この光村の教科書を見ていて、先ほど調査委員長からのお話にもあったように、「たいせつ」のところでポイントが明確になっているという点も、子どもにとってはどこに気を付けて書けばいいのかということが分かりやすくなっていると思いました。併せて、子どもが間違いやすいポイントもわかりやすく示されています。例えば光村の3年生の12ページの「横画」という部分をご覧ください。丸や青三角で子どもが間違いやすいような例もここに載っていて、子どもにとっては、この丸はこんなふう

に気を付ければいいのだな、この青三角のようになってはいけないなといったような例なども明示されていて、光村図書は大変いい教科書になっているかなというふうに感じました。

(選定委員長) ありがとうございます。他に感想もありましたらどうぞ。

(選定委員) 次回以降ということに申し送りとしてもし残るのであれば、先ほどのデジタルコンテンツの活用という評価点を入れていく中で、前提としてちょっと知っておきたいのが、今はまだ過渡期で、そういうものを使った授業ができる学校とできない学校で差があると思うのです。そのあたりも含めて、今どういう状況なのかというのを教科書を見せていただく前に情報として頂いた上で見るという流れをつくっていただけると有り難いです。

(選定委員長) では、質問は調査委員長に聞いた方がいいですかね。今現在そういったものを使っているかどうかを聞くということですか。

(選定委員) 項目として今回は盛り込めないで、次回以降ということで、もし次回以降そういうふうにするのであれば、私たちが教科書を見る上で、そこがどのくらい活用できるのかというのを知った上でということです。特に質問ということではなく、その課題に対しての取り組み方ということで結構です。

(選定委員) 先ほど光村図書で、明確にデジタルコンテンツで使えるQRコードが各ページに付いていると言っていたのですが、他の教科書も、ページの裏のところに「インターネットを使った学習ができます」とあって、そこが読み込めるようになっていて、もしかしたらそこから読み込めば教科書の中のいろいろなコンテンツを一括で見ることができるような工夫が多分教科書にもされているのかなと思うので、見てみないと分からないのですけれども、やはりこんな時代になってきているのかなということを思います。

(選定委員) 私は、書写は1年生の教科書をすごく重点的に見させてもらって、その中で東京書籍さんは書き順が色ごとにきちんと1画目、2画目、3画目というのが分かれていますので、国語の最初の学習でもひらがなやカタカナと併せて何度も取り組めるので、正しい書き順で子どもたちが早い段階で覚えられるからいいのではないかと感じました。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、若干ご意見と感想を頂きましたけれども、確認させていただきます。特に報告書の内容についての修正等のご意見はございませんでしたので、調査委員会の報告書の内容を尊重するとともに、先ほどの市民からの意見を傾聴し、書写における教科書採択の答申書をこのように作成してよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。ご承認いただいたということで、それでは続いて音楽についての審議に入ります。

⑥音楽

(選定委員長) では、よろしいでしょうか。では、調査委員長、ご報告のほどよろしくお願ひいた

します。

(音楽調査委員長) 音楽科の教科書の調査結果について報告します。音楽科では2者の発行者について調査しました。

1者目は教育出版社です。評価の高かった点を中心に説明しますと、見やすく、情景を想像しやすい写真や絵を随所で使用していること、「学びナビ」で学び方のヒントを提示していること、日本の伝統音楽や唱歌、歌曲を多く教材に用いていることの3点が挙げられます。それでは1点目から説明します。調査項目7番の写真や絵についてです。4年生8ページの「さくらさくら」は、右側にあります。続けて5年生8ページの「こいのぼり」は、これらを含む4曲の歌唱共通教材にて、見開きのページを用い、美しい日本の風景をダイナミックな写真を示して表しています。また、2年生41ページの「こぎつね」の挿絵なども見やすく、歌詞の情景やメロディーの雰囲気想像しやすくしています。また、3年生9ページの音符や楽譜の説明などについて、これを含めて2カ所に透明シートを用いており、全体として見やすく分かりやすい教科書になっています。

2点目は、「学びナビ」による学び方のヒントを挙げているところです。1年生53ページの「まねっこ」は、「森のくまさん」の曲の冒頭のところで、お互いにまねっこをする場面ですがけれども、このページの方角磁針が載っている部分が「学びナビ」というところです。これらにより、児童が見通しを持って学習を進めるようなヒントが明記されています。他にも、2年生49ページの右上の汽車の音楽のところにも載っています。歌唱共通教材においては、4年生30ページの「とんび」には、左下の方に旋律線等の表示があります。鑑賞においても、6年生39ページの「春の海」には、鑑賞の仕方についてヒントになるものが明記されています。

3点目の特徴として、国歌「君が代」の記載、伝統音楽等について紹介します。1年生から学年の成長段階に応じて、歌詞の大意や国歌の意義、また言葉の説明などが出ています。1年生の70ページでは、児童にとってとても難しい言葉で「さざれ石」という言葉がありますが、さざれ石の意味なども説明されています。さらに上の学年にいきますと、5年生72ページにも歌詞の大意を含めて載せてあります。成長段階に応じた指導ができることとなります。また、日本の伝統音楽や唱歌、歌曲について6年間で70曲掲載されており、巻末には「にっぽんのうた」として多くの曲を曲集的に掲載しているところが特徴です。

続いて、2者目の教育芸術社に移ります。こちらも評価の高かった点を3点挙げさせていただきます。冒頭の「音楽の木」から巻末の「ふりかえりのページ」まで構成が大変分かりやすく、まとまりがあることが1点目。各種の楽譜や文字が正確で見やすいことが2点目。そして、創作的な活動である音楽作りが系統的に位置付いているという3点を紹介します。

1点目、調査項目1に当たる部分ですが、6年生の4ページに、2ページを使って大きく「音楽の木」という表示があります。これは、1年間の学習の見通しを示していることが分かります。それらの学年の学習内容が4領域8項目で分かりやすく示されている、いわば学びの地図になっているものです。また、巻末には「ふりかえりのページ」や音符、記号、リコーダーの運指等の一覧があります。4年生の82ページをご覧ください。それぞれの学習に該当するページも明確に示されていて、基礎的な能力定着のために繰り返し使用できるように工夫されています。さらに1枚めくって最後のページになりますと、先ほど説明しました音符や記号、運指等の一覧が、その該当学年だけではなく全学年の分を載せています。つまり、1年間の学習のスタートとゴールが明確に示されていると思います。

2点目、楽譜や文字についてですが、学びに応じた楽譜を使っているところが特徴です。1年生の25ページ、上の方にはいわゆるリズム譜というものが見やすく示されています。同じく1年生の37ページは、鍵盤ハーモニカの導入譜と呼ばれるものです。2年生の56ページは、鍵盤ハーモニカの五線階名譜と私たちは呼んでいますが、五線譜の中にドレミが入っているものです。その他、他の学年の五線譜も大きく見やすくなっています。歌詞についてもフォントが見やすく、3題以上ある場

合は明朝とゴシックを区別しています。例えば、4年生16ページの歌唱共通教材「牧場の朝」をご覧ください。1題目と3題目が明朝、2題目がゴシックで、楽譜の下に区別して分かりやすく表記されています。その他、文部省唱歌や童謡、民謡など、より表現に近いように五線譜で示され、楽譜で表記されているという特徴があります。

3点目、調査項目の6番に当たるところですが、系統的な創作的活動の設定についてです。音楽作りでは、リズム作りと節・旋律作りという二つの大きな柱があります。その二つの活動を1年生から6年生まで、発達段階に応じて高めています。金沢の子どもたちは、技能面では、連合音楽会などがあるため、大変高いレベルを持っていると思われませんが、創作的な学習で思考力・判断力を生かして音楽作りをすることにまだまだ課題があると感じています。音楽作りは、このような子どもたちの思考力・判断力を高めるために非常に大切だと思っています。

具体的には、1年生26ページで初めてリズムの音楽作りに取り組むこととなります。言葉でリズム、身の回りにある身近な言葉をリズムに合わせて言ってみるような活動からスタートして、各学年で学習します。3年生30ページは、手拍子を使って自分たちでリズムを創作し、お互いにリズムを聞き合いながら、作ったリズムをつなげて手拍子の音楽を作ろうという活動です。続いて、5年生の30ページは、手拍子からさらに打楽器へと音色の発展があり、しかもリズムをお互いに工夫しながら、次のページにも続きますが、音楽を重ね合わせて新しいリズム・音楽作りをしようという活動になります。その他、旋律についても系統的に作られています。もし必要であれば後ほど紹介させていただくことにします。

このように、音楽作りにおいて効果的な学習を高めていく上で、この教科書が非常に適切であると私たちは考えています。以上、2者についての調査の説明をさせていただきました。

(選定委員長) ありがとうございます。では、委員の皆さま、ご質問等お願いします。

(選定副委員長) また後ほど機会があればということで、今、旋律についてお話がありました教育芸術さんの方ですが、これは前回の採択のときもお聞きしたような気がするのですが、例えば3年生の42ページであるとか、5年生でも19ページであるとか、非常に段階を追って精緻になっていたりしているのが図でも見えると思うのですが、テレビゲームで彼らは多分こういう表現の仕方に非常に慣れ親しんでいるものが、この教科書に入ってきて面白いなと思ったのを覚えています。実際の授業の場面で、こういうものをうまく活用して理解につなげておられるような授業をされているのかどうか。私はなかなか音楽の授業を拝見するチャンスがないので、ぜひ現状について教えていただければと思います。

(音楽調査委員長) 特に音楽作りについては時間がかかって、1時間の中で収まるものではなく、しかも他の歌唱や器楽に比べると、すぐに何か成果が表れたり、指導の効果があるということがないので、研究授業等で扱う先生があまりいらっしゃらないというのは確かです。しかし例えば4年生の15ページを見ていただけますか。音楽作り、旋律・節作りについての学習は、たくさんの先生が研究されているのですが、左の「歌のにじ」という表題曲の一番最後の段に、和音に当てはまる音を自分たちで入れて音楽作りをしようという、まさしく先生が言われたような音楽の流れというか、旋律線を自分たちで作りながら音楽創作をするというのが系統的に4、5、6年と続いていきますので、比較的簡単な作業から音楽作りができるようになってきていると思われま。

(選定副委員長) ありがとうございます。

(選定委員長) よろしいでしょうか。私も関連して、例えば先ほどの4年生の36、37ページは、

旋律を図形で示していますね。そういうところが非常にいいなと思うのですが、報告書の方には何番目に書かれますね。例えば7番か6番ぐらいに、そういうところは反映しておられますでしょうか。そういうのは調査委員会として評価しているのかしていないのかも含めて、いかがでしょうか。

(音楽調査委員長) 教育芸術社の方は6番の調査項目のところで、音楽作りについての発達段階に応じてまさしくここが入っているところです。

(選定委員長) そこにこういった主旋律の図などを表現するということで評価されているということですね。分かりました。あと一つ、鍵盤ハーモニカやリコーダーの吹き方などは、実際に子どもたちがやってみないといけない世界ですが、教科書として見やすいというか、技能的な視点でコメントを頂ければ嬉しいのですが。

(音楽調査委員長) 比較させていただいてもよろしいですか。それでは、今のご質問にあったリコーダーの件についてですが、教育出版社3年生16ページと、教育芸術社3年生18ページを比較していただけますか。二つを並べていただくと分かると思います。同じ楽器の紹介のところが出ていて、よく似た紹介なのですが、例えば穴の番号を付けてあるところがあります。これは教育芸術社の方ですが、指使いのところで、この指穴に反映した図がこの後載ってきます。指使いは1番の指と0番の指というふうなところが、25ページは非常に分かりやすいという意見がありました。また、立ったときの姿勢は両者にあるのですが、座ったときの姿勢も、教育芸術社の方には指し示してあります。20ページに表示されています。

また、最初に習う曲の長さですけれども、教育出版社の方が少し長い曲で、子どもたちに負担があるかもしれません。教育出版の20～21ページになりますが、シの音の練習です。それに比べますと教育芸術社の方は、例えば24ページの方は、ラの音に移りますが、2小節で子どもたちの知っている童歌に挑戦しようということで、技能の取り掛かりが比較的遅い子にとっても負担のない学習ができ、リコーダーの導入については教育芸術社の方が優れているという調査委員会での話がありました。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか、委員の皆さま、よろしいでしょうか。では、調査委員長、ありがとうございました。ご退出いただいて結構です。

<調査委員退室>

(選定委員長) それでは続きまして事務局より、各学校の研究委員会報告および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。よろしくをお願いします。

(学校指導課長) それではご報告いたします。資料Bの8ページをご覧ください。各学校における教科用図書研究委員会調査研究報告書では、教育出版については、項目5は教育芸術社より多くの意見が挙げられています。教育芸術社については、項目1から4までの4項目において教育出版より多くの意見が挙げられており、意見の総数も多くなっている状況であります。続いて、資料Cの7ページ左側をご覧ください。市民の皆さまからは、発行者の数についてのご意見が寄せられていました。以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは審議の方に移りたいと思います。答申のための報告書に付け加えたらよい点や修正点、削除など意見がありましたらお願いいたします。ないようで

したら、感想も含めて何かコメントがございましたらお願いします。ございませんでしょうか。

ないようでしたら私から感想で、先ほどの音楽が得意な子、不得意な子はやはり結構差が出てくるかと思います。楽器の持ち方や、やはり達成感がないと演奏とかリコーダーとか、あるいは音だけでなく、やはり視覚的にリズムとかそういうものを理解して、そちらから理解しやすい子も出てくるかと思うので、そういう意味で先ほどもちょっと質問させていただきましたけれども、図で見えるとか、あとリコーダーの吹き方とか、教育芸術社の方ですか。そういうのが使いやすいかという感想は教科書を見て思いました。いかがでしょうか。

(選定副委員長) 私も旋律のところでは質問させていただきました。音楽は本当に、従来のかく練習したり鑑賞したりするところから、最近子どもたちもさまざまな形で活用したり、YouTubeなどで動画を作るときに音楽も効果的に活用したりということで、表現の手段としての役割がどんどん出てきているのかなと思います。自分のものとするためにということを考えたときに、作るという活動についてこれから少しでも入れ込んでいっていただきたいですし、あるいはちょっと観点は違うかもしれませんが、そういうテレビゲームなどで慣れ親しんだ表現手法などからずっと入って行って、音楽により親しんで鑑賞していくような、あるいは活用していくような工夫も見られたかと思うので、そういったところを見ていけるといいと感じました。

(選定委員長) 他に委員の皆さま、いかがですか。ご感想でも結構ですが、よろしいでしょうか。そうしましたら確認させていただきます。報告書の内容については特に修正等のご意見はございませんでしたので、調査委員会の報告書の内容を尊重するとともに、先ほどの市民からの意見を傾聴して、音楽における教科書採択の答申書をこのように作成してもよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。お認めいただいたということで、次に進めさせていただきます。それでは本日の最終種目、図画工作について審議いたします。

⑦図工

(選定委員長) では、よろしいでしょうか。調査委員長、ご報告をお願いします。

(図工調査委員長) それでは、図画工作科は開隆堂出版と日本文教出版の2者の発行者についてご説明いたします。

初めに開隆堂出版の教科書からご説明します。項目1番の基礎的・基本的な知識や技能の習得に関する項目についてお話しします。教科書1・2年上の50～51ページをご覧ください。最後の方のページになります。描画の見本について、1年生の学習内容に合わせた内容が掲載されています。1ページめくってください。さらにここから4ページにわたって、はさみの使い方や工作の技法について掲載されています。さらに最初のページをご覧ください。作品に題名を付けることで、言語活動の充実を図ったり、題名を付けていくポイントについて示すなど、該当学年の学習に合わせて知識・技能を習得できるように工夫されています。さらに、各題材のページにも製作の手順が正しく掲載されています。例えば、同じ教科書の14～15ページをご覧ください。折り紙を使った題材の場合の紙ののり付けの方法や折り方、切り方などが図で具体的に示されています。次に、30～31ページの「形と色でショートチャレンジ」というページをご覧ください。形や色に特化した共通事項について、短時間で学べる題材を紹介しています。さらに22～23ページの粘土を扱った題材をご覧ください。

写真で粘土の扱い方、下の方をご覧いただきたいのですが、粘土を使って丸めたり、ひもにしたりといった基本的な技能について紹介しています。このように全学年で同じような構成になっています。

もう一つ、次は6番の項目についてお話しします。教材や内容の学年相互の関連が図られていることに関する項目についてです。5・6年生下の教科書の表紙をめくってください。ここが見開きのページになっています。2～4ページをご覧ください。1年間に学ぶ題材を系統的に配列していることで、学習の見通しを持つことができます。全学年の教科書が同様の構成になっています。次に6～7ページをご覧ください。導入のページで、教科書のテーマが示されています。動物園の表示から、中学校で学ぶ視覚伝達デザインについて紹介し、中学校での学習への興味を高めています。最後に46～47ページ、「未来に向かって」のページをご覧ください。図画工作科で学んだこれまでの学習を振り返り、作品や活動の様子を見ることで中学校生活への期待を高めたり、接続を意識付けるページとなっています。

続いて、日本文教出版についてご説明します。まず2番の思考力・判断力・表現力を育成する項目についてです。1・2年上の教科書26～27ページをご覧ください。「ごちそうパーティーをはじめよう！」という題材です。児童の意識や思いが伝わる吹き出しの言葉や、楽しく関わりながら活動する様子が写真で豊富に掲載されています。さらに、絵の具の形をしたキャラクターのアドバイスなどからも、児童の発想を促すように工夫されています。作業手順を示すだけでなく、何のためにどのように表現するのか、作ったごちそうでパーティーをするために、粘土を丸めたり伸ばしたり、どのように形作るか、目的意識を持ち、狙いを明確に意識して表現できるようになっています。他の題材にも同じようなガイドがなされていて、我々が授業をする上でも指導のヒントになると感じました。

もう一つは3番の項目で、興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を促す項目についてです。同じ教科書の8ページ、目次のところをご覧ください。まず、題材ごとの学習のめあては、3観点で短い言葉で明確に示されています。9ページの下の方に双葉マークがあり、活動の後の振り返りの内容を示しています。さらにその下の「見る・作るをもっと楽しく」というところで、「教科書美術館」「ひらめきポケット」など、資料ページについて紹介しています。もう一度26～27ページに戻ってください。学習のめあてを基に作り方を工夫して、好きな食べ物を作り、見合う活動の後で、学習を振り返るまでの造形的な見方・考え方を働かせて一連の学習が展開され、学びが深まるように工夫されていることが分かると思います。次に4～6ページをお開きください。3ページ分の見開きページになっています。「教科書美術館」として形や色に特化した資料となっています。次に36～37ページの「ひらめきポケット」もご覧ください。児童の意欲を喚起する美しい紙面の資料が豊富に紹介されて、造形的な見方・考え方を刺激するものになっていることが分かると思います。以上で説明を終わらせていただきます。

(選定委員長) ありがとうございます。では、委員の皆さまから質問等お願いいたします。それでは私の方から、例えば日本文教出版は、各活動の前にあんなところやこんなところが見えてきたとか、何か心に感じるようなことが挙げられていて面白いなと思ったのですが、そういうところはどう評価されたのか、もし評価されているのだったら、報告書のどういうところに反映されたのか、教えていただければと思います。各活動の最初のちょっとした言葉ですね。「何々しよう」ではなくて、何をやるのだろうというふうに関心を感じるようなことが結構挙げられているので、そういうところは評価されたか、それともあまり議論されなかったか、その辺でもし議論されて報告書に反映されていればということです。

(図工調査委員長) 題材面の上の部分の言葉でしょうか。短い言葉ですが、これで大人も子どもも、この学習がどんな学習なのか分かりやすくなっています。例えば、今見ていただいている「ちよきちよきかざり」でしたら、紙を切ってできるいろいろな形で教室を飾るのがここの学習のねらいにな

るということが、短い言葉で伝わり、分かりやすくなっています。

(選定委員長) ありがとうございます。他に委員の皆さま、いかがですか。

(選定委員) 調査研究項目5番の「現代的な諸課題への」という項目の中で、2者ともプログラミングの技術やプログラミング的思考という評価が入っているのですが、具体的にそれぞれの教科書のどの部分を踏まえてこういう評価になったのか、教えていただけますでしょうか。

(図工調査委員長) 従来からあった、例えば日本文教出版の5・6年の上の中でアニメーションを作るという題材があるのですが、例えば写真を撮ったものをつなげていくとアニメーションになるというようなものであるとか、開隆堂の方の光を扱った作品の中で、作品の写真を撮ったものをつなげていくような題材が示されていて、どちらも同じように扱われています。

(選定委員) 開隆堂では、どの教科書でしょうか。

(図工調査委員長) 5・6年上の46～47ページになります。作品の写真を撮ってつなげていくことで、作品がアニメーションのように動くようにする題材です。

(選定委員) この二つをプログラミングというキーワードと絡めて評価しているのですが、実際にこの教科書を使ってどのような授業になるのか、興味深いです。

(選定委員長) 他にご質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら調査委員長、ありがとうございます。ご退席いただいて結構です。

<調査委員退室>

(選定委員長) では続いて事務局より、各学校の研究委員会報告および教科書展示における市民や保護者の意見を報告していただきます。お願いいたします。

(学校指導課長) それではご報告いたします。資料Bの9ページをご覧ください。各学校における教科用図書研究委員会調査研究報告書において、開隆堂については、項目1は日本文教出版より多くの意見が挙げられています。日本文教出版については、項目2から5までの4項目で開隆堂より多くの意見が挙げられ、意見の総数も多くなっています。資料C、市民の方からのご意見は、図画工作科については意見は寄せられていませんでした。以上でご報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、図画工作についての審議をしたいと思います。答申のための報告書に付け加えたらよいと考える意見や修正したらよいという意見がございましたら、お願いいたします。

(選定委員) 先ほどご質問させていただいたプログラミングとの関連、キーワードとしてのプログラミングという用語としての関連なのですが、果たして今、その評価したポイントというのが、学習指導要領改訂で入ってくるプログラミング教育というものの教科書になっていない部分かと思いますが、金沢市でやろうとしているプログラミング教育のねらいや方向性と、この教科書の評価点というのは同じ考えで評価されているのかということところがちょっと気になるかと思っています。先ほ

ど回答としてもあったとおり、アニメーションがプログラミングかというところ、あれは元々、写真等を使った表現方法でしょうし、そこで無理にプログラミングという言葉を使って表現するのが本当に適切なかどうかというのは、プログラミング教育の方との兼ね合いとして確認した方がいいのではないかと思いますので、いかがでしょうか。

(選定委員長) 今のご意見に対して、選定副委員長、いかがでしょうか。プログラミングという言葉が報告書には書いてあるわけですが、適切かどうかということも含めて。

(選定副委員長) アニメーション等も、デジタル表現をしていくというところで、組み立てて考えたり、そういうことをしっかり考えて製作活動に移していくような作業が入ってくるようであれば、プログラミング的思考のところでも扱っていくことができるのかなと思います。それから関連してということですけども、この1～2年でSTEAM教育という言葉も随分出てくるようになってきています。Science、Technology、Engineering、Art、Mathematicsというふうに、実際に使いながら力を付けていくようなことなども国際的にも求められるようになってきているところで、図工の役割が改めて出てきています。さまざまな教科の力を組み合わせて表現する力の一翼としてアートの部分も関わってくるということが改めて位置付けられつつありますので、そのような観点からも見ていけるといいと思います。

元に戻りますが、プログラミング的思考ということで、プログラムそのものとして捉えるとかなり厳しいところもあると思いますけれども、デジタルを使って描画したり、順序よく組み立てるなどのところで触れていくことになってこようかと思います。

(選定委員長) 報告書の方はどうでしょうか。私も気になってプログラミングのところには線を引いているのですが、プログラミング的思考という、プログラムを利用しているところなのかなという気はします。あとは、先生方がそれを教材としてどこまで用いるかだと思います。プログラミング的思考として、教材を例に挙げて話したり、そういった内容を先生が扱ったりすることも可能だとは思いますが、教科書そのものが強調しているわけではないで、学習の仕方や扱う人によって違ってくるのかなという気はします。

(選定委員) その評価の内容として日本文教出版の方は、内容の説明の中でプログラムを作って映像作品にしたという事例として挙がっているという表現は一致しているかだと思います。一方で、開隆堂の方は、逆ですね。

(選定委員長) 報告書では、開隆堂の方がプログラミングの技術を用いたということですね。日本文教出版の方が「プログラミング的思考の育成につながる活動」というふうにしています。

(選定委員) 説明していただいた箇所を見ると、どこにもプログラミングを用いて作品を作ったという表現は全くないのです。写真を撮って、コンピューターを使って作品にしていたということはあるけれども、それはこの表現として一致しているのかということところはちょっと違うのではないかと思います。

(選定委員長) 教科書の内容だけを見れば、開隆堂と同じように日本文教出版の方も技術を用いた事例ということでもいいのかなという気はします。思考までいくとやはり、先生がどうそれを用いてそこまで深めるかということなのかなという気はします。

(選定副委員長) これはもう本当に演繹的な思考で捉えるところになってきますけれども、例えば金沢市では IchigoJam (イチゴジャム) というワンボード PC ベーシックを扱う授業を中学年に入れることになっているかと思います。例えばその機能の一つとして、LED の色を変えたりするようなものを自分の作った作品にも照らして色を変えていくようなものというのは、今もプログラミングのコンテストなどで作られたりしているわけですが、もしそういうものが加わってくるようであれば、光の芸術のようなどころでつながってくるのかなと思うのですが、いずれにしてもそういうふうに意図的にねらって扱っていかないと、教科書そのものでプログラミングを明確に言っているほどかというのは、ちょっと悩ましいところだと思います。

(選定委員長) 5 番目の項目になりますけれども、今のプログラミングあたりの報告書の内容を修正した方がいいというご意見かなとは思いますが、どうでしょうか。それに関して他にご意見はございませんか。

(選定委員) 県の教科図書選定資料に、日本文教出版のところも開隆堂のところも、⑤でプログラミングの技術であったり、プログラミング的思考ということが明記されているので、県の資料等で何か似ているところもあるので、そのあたりも考慮する部分もあると感じました。

(選定委員長) 他にご意見はありますか。なかなか実際、本当にどう授業をされるのかということで、先ほど申しましたように、プログラミング的思考につながることはないと思います。いかがいたしましょうか。修正等も可能ですが、場合によっては。ご意見ありましたらどうぞ。

(選定委員) 書いてあること自体が全く間違っているかというところではないという前提で、これを考える上でまだ話に出てこない、金沢市でやろうとしているプログラミング教育は、全国的にもかなり先進的なのではないかというふうに聞いています。その辺の進めようとしていることで、この報告書自体がプログラミング教育につながる活動や教科書だという捉え方をされて、何か逆効果になるようなことがないのでしょうか。比較する背景が分からないので、うがった見方をしてしまうと、これをプログラミング教育と言っているというふうに聞こえかねないという印象があるというのは気になるころではあります。言っていること自体は別に間違ったことを言っているということではないと思います。

(選定副委員長) 先生方と一緒に、各学年で例えばこういう授業をやってみたらどうかという第 1 版をまとめる作業を行いました。その中に美術で行うことという形の明記は、今のところまだしていません。ですので、金沢独自の、既にこういうことを図工でもやってみようという形でのプログラム教育の提示というのは、明確にはされていない状況です。ですから、本当にプログラミング的思考で順序を組み立てたり、そういうところを鍛えるということであえて入れてきているのかなと読み取っています。

(選定委員長) なかなか難しいところですが、どういたしましょうか。多少修正しようかどうかというのは、やり方にもよるところはありますが、原案になるかどうかまたご意見を頂きたいのですが。今のご意見に関しては報告書をこれで挙げさせていただいて、その部分は私の方で教育委員会の方に説明に上がるときに、口頭でそのところは議論になった旨、そして今後の金沢市のプログラム教育にも関わってくることなので、一応そういう意見が出たということにさせていただければ、一応こちらの議論した内容は通じるかなと思うのですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。このことは報告させていただこうと思います。

その他、何かご意見などはございますでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら確認させていただきます。先ほどの報告書の内容については、特に具体的な修正はされずに、先ほど意見が出たプログラミングについては、私の方でまた説明させていただくということで、先ほどの報告書の内容を尊重するとともに、先ほどの市民からの意見に傾聴して、図画工作における教科書採択の答申をこのように作成してよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) では、お認めいただいたということでありありがとうございます。委員の皆さま、ご協力ありがとうございました。これで本日予定した7種目の審議は終わりました。本日審議された結果は、本選定委員会の答申として教育委員会へ提出していきたいと思えます。明日24日は英語、社会、地図、算数、理科、生活の6種目についてご審議いただく予定です。明日もどうぞよろしくお願いいたします。では、司会を事務局の方にお返しいたします。

(事務局) 委員の皆さま、長時間にわたり答申について審議いただき、誠にありがとうございました。ただ今、選定委員長からお話があったように、第3回の選定委員会は明日24日の13時から、同じ本会場にて、6種目について審議します。よろしくお願いいたします。本日の資料ですが、会の性格上、お持ち帰りできませんので、机の上に置いたままお帰りいただきますようお願いいたします。

以上をもちまして、第2回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を終了します。本日はありがとうございました。

(一同) ありがとうございました。

令和元年度 第3回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

日時：令和元年7月24日（水）13:00～17:00

場所：金沢ふるさと偉人館 3階 講座室

（主席指導主事） 委員の皆さま、本日もお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただ今より、第3回金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を開催したいと思います。机上には昨日と同様に資料等を置かせていただいています。ご確認をお願いいたします。

よろしいでしょうか。それでは、本日も議会進行は選定委員長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

（選定委員長） 皆さん、こんにちは。昨日は7種目についてご審議をありがとうございます。本日は6種目について審議していただくこととなります。委員の皆さま、昨日に引き続き、よろしくお願いいたします。

それでは早速ですが、審議に移りたいと思います。本日は、次第にもありますように、英語から順に6種目について審議する予定です。まず、英語についてです。調査委員長にお入りいただきます。

3. 種目ごとに審議

⑧英語

<調査委員入室>

（英語調査委員長） 小学校の英語については初めての教科用図書の採択であり、7者について調査いたしました。どの発行者もよく考えられており、どれも良いなと思いながら私たちも話をしました。私たちが調査したところを各発行者順に報告させていただきます。

最初に、東京書籍の『NEW HORIZON Elementary English Course』をご覧ください。まず、特徴的な調査研究項目7について説明いたします。見ていただくとすぐに分かるように、大変大きな夫判紙面であることを生かして、各ページの定位置に学習要素が配置されています。例えば6年生のUnit 1、6ページをご覧ください。中央の部分では45分の授業であることが分かるようになっています。単元の導入の「Starting Out」のページでは右上に歌やチャンツがあり、ページの下には既習を活用できる「Small Talk」や「Picture Dictionary」を使える「Word Link」、巻末にある「Sounds and Letters」の活用が示されています。また、「Picture Dictionary」が別冊になっています。

もう一つ、項目2について説明します。各単元とも「Your Turn」や「Enjoy Communication」の中にペアやグループで取り組む活動が多く取り入れられていることに加えて、各単元の学びを、それぞれまとまりごとに「Check Your Steps」にカードで位置付けてあり、相手意識を持って話したり聞いたりする活動の充実が図られています。また、それぞれの単元の活動のカードが一番後ろの巻末に付いていて、それを使って3回の単元をまとめてもう1回復習するという形になっているのが、東京書籍です。

次に、開隆堂の『Junior Sunshine』について報告いたします。項目3についてお話しします。巻頭の開いてすぐのところに「CAN-DO マップ」があります。加えて、単元ごとに「ふりかえりをしよう」があり、児童自身が各単元について振り返ることで、主体的に学習へ取り組めるよう工夫されています。「CAN-DO マップ」ではできるようになることを中心に示していますが、「ふりかえりをしよう」では、技能面だけではなく、「分かったこと」や「○○しようとした」といった知識・理解や学び方についても振り返りができるようにしています。また、巻末のページには、一つ一つの学習活動について

この教科書で学んだことリストがあり、自分の理解を確かめながら主体的に学習できるような工夫があります。

次に、学校図書の『JUNIOR TOTAL ENGLISH』をご覧ください。これも大判です。しかも、持っていたら分かるように、とても重いです。150ページぐらいあります。その理由は、項目6と関係があると思います。5年生では、導入として最初にずっと「クラスルーム・イングリッシュ」があり、その後、「Pre-lesson」ということで、20ページまで3時間分続くのです。6年生でもこの「Pre-lesson」は2時間位置付けており、前学年までの学習を整理して繰り返し学習することで、当該学年の学習が安心して始まるように配慮されています。また、既習表現を場面を変えて扱って理解が深まるよう工夫されているところもあります。例えば5年生のレッスン内容にLesson 9「Where do you want to go?」という単元があります。さらに6年生にも同じところがあります。同じ表現なのですが、場面が違うということで、繰り返し扱うということをお大事にしていると思いました。その単元の間にもいろいろところで、地図を用いたりして、この表現を使うような工夫もされています。

次に、三省堂の『CROWN Jr.』をご覧ください。項目1と3について授業の流れに沿って説明したいと思います。『CROWN Jr.』は「HOP」「STEP」「JUMP」で1ユニットとなっています。各学年に3ユニットが設定されています。まず、各ユニットの「HOP」ですが、最初の「HOP」で「My Goal」を記入するというので、各自の学びの見通しを立たせるような活動を入れています。「STEP」は2～3のレッスンで学習を進めていきます。その流れとしては、絵辞典のようなパノラマというページがあつて、そこでさまざまな英語を聞かせてから次のページへ行くと、「Listen & Talk」や「Write & Talk」という形で、技能をいろいろ入れ込みながら、少しずつ自分のことを表現できるよう工夫されています。他にも「Story」や「Enjoy Listening」、それから「Enjoy Reading」があつて、聞いたり読んだりする活動も入れることで、確実に基礎的な英語力を育むような工夫がされていると思います。さらに教科書の下部分には「Talk to Friends」や「Word Chant」があり、これらの活用も英語に慣れるための下支えとして位置付けてあることも良いと思っています。最後に「JUMP」に進みまして、「JUMP」でプレゼンテーションを行いながら、「HOP」で記入した「My Goal」について振り返りをさせます。振り返りでは、次はどのような工夫をしたいかということをお聞き掛けて、主体的・自発的な学習が促されるようにしていますし、記述するスペースも2回あります。

次に、教育出版の『ONE WORLD Smiles』についてご報告します。項目3についてです。5年生のLesson 1をご覧ください。14ページです。各単元の冒頭で、例えばここでは「あなたのことを友達に知ってもらおう」というゴールを示します。そして、「Let's Think」で、あなたはどのような自己紹介でどのようなことを伝えたいかという問い掛けをします。子どもたちが自分についてイメージして、見通しを持ちながら学習を進めることができると思います。その後、聞くことを繰り返して、「Activity」でやりとりを楽しみながら、最後に「Final Activity」へつないでいきます。単元末の「ふりかえり」のところで、自己評価で学習の達成度を把握できるようになっています。主体的に学習できるような工夫がされていると思います。

次に、光村図書の『Here We Go!』をご覧ください。項目4について説明したいと思います。まず、学年に3回、「Review 世界の友達」という、世界の友達が出てくる復習のページがあります。世界の実在する小学生が登場して、それまでに学んだ表現を振り返ったり、さらに広げたりできるようになっています。また、九つの各単元の「Jump!」のページに全て「World Tour」というコーナーがあり、世界のさまざまな映像を見てグループで考える活動が位置付けられています。これがゴール活動の内容を考えるヒントにもなります。それから、単元としても5年生のUnit 6の「I want to go to Italy」や6年生のUnit 2の「Welcome to Japan」といった単元にも、異文化理解・日本文化の理解が深まるような工夫がされています。

最後に、啓林館の『Blue Sky』です。項目2についてご報告します。各ユニットは三つのパートで構成されています。Part 2とPart 3を中心に「Activity」があるのですが、その中で各自の考えや

思いを表現できるような問い掛けがされていると思っています。例えば6年生のUnit 3のPart 2、35ページをご覧ください。ここでは自分の住む地域にあったらいいと思うものやその理由を考える活動があります。次のPart 3では地域の良さや理想を加えて、既習の表現を使って再度、表現等も変えながら膨らむように設定しています。さらに6年生の94ページをご覧ください。年3回の「REVIEW」があるのですが、ここでも既習表現を活用しながら表現できるように、左下に思考マークが入っているかと思うのですが、このような工夫もされています。また、そのまま右を見ていただくと、英語だらけに感じるのですが、グラフも出ていて、ここも子どもたちがかなり考えながら読み取ってくれるのではないかと期待できます。このように思考力・判断力・表現力を育もうという工夫もあるという話し合いをしました。

以上、7者について報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。委員の皆さま、ご質問等をお願いいたします。

(選定委員) 金沢市は早くから英語に取り組んでいて、全国的にはかなりアドバンテージを持った状態の子どもたちではないかと思っています。ここにいろいろな観点があるのですが、観点だけではなくて、金沢市の子どもたちの状況を鑑みたときに、他の市町とは違うところがきっとあるのではないかと思うのですが、金沢市の子どもたちという観点で見た場合に、この教科書はやはりぴったりだなということがありましたら、お聞かせいただければと思います。

(英語調査委員長) 平成16年度に特区ということで始まったときには、「自分シラバス」ということで、子どもたちが自分のことからだんだんお友達との関わり、地域のこと、日本、そして世界のことへと視野を広げていくことを大事にしてきました。金沢の子どもたちが他地域と違うのは、副読本を使っていることだと思います。今まで使ってきた副読本にも、このように少しずつ広がっていく世界を、ホップ・ステップ・ジャンプで学習を進めてきました。このような形があるのが『NEW HORIZON』です。5年生と6年生の教科書の表紙のところを開いていただけますか。とてもきれいな写真と併せて、5年生でしたら大きく三つ、自分、地域、日本というステップアップでだんだん自分の世界を広げていきます。6年生になると、同じように世界の国々、世界と日本、そして中学校への扉という形で進んでいくということが見て取れ、今まで金沢が大事にしてきた流れととても近いのではないかと感じています。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 3番の「興味・関心を生かした」という項目で、今回、初めて教科化ということで、いろいろ特色のある教科書がそろっていると感じました。自分たちが勉強したときは挿絵のタッチ等がかなり変わって今風だなと感じています。各教科書でいろいろな登場人物のキャラクター設定や挿絵・挿画が出てくるとか、全体としてのストーリー性など、そのあたりは子どもたちにとっては感情移入といいますか、興味を持って学べるポイントなのではないかという気がします。そのあたりは今回の研究の中での評価としてはどのぐらい重視するといいますか、どのぐらい効果があるものか等を教えていただけますでしょうか。

(英語調査委員長) 本当にイラスト一つを取っても全く違うのですが、かなり好き嫌いがあるようなところもあって、正直に言って、調査の段階では挿絵の話はあまり議論には出なかったのです。ただ、お話のあったストーリー性というところで特徴があるのは、報告書にも書かせていただいた光村図書です。光村図書については、7番のところ少しストーリー性ということを書かせていただいた

のですが、挿絵はほとんど教室の場面が多いのです。ですから、子どもたちは自分たちの教室と重ね合わせてイメージしやすいのかなと思って見ていました。ただ、甲乙を付けるというところまでは正直、話が行っておらず、写真の美しさとか、そういうところで言うと、やはり先ほどの東京書籍は写真が美しい、見やすいというところはあります。どの者もユニバーサルデザインという配慮もされているので、本当に甲乙付け難い状態だったと思います。

(選定委員) 私も光村図書の教科書を見ていて、一番キャラクター設定がしっかりしていて、登場するシーンも、表紙からずっと出ていて多いという点が特徴的だと思いました。あとは5年生のところで、外国人のクラスメートがいて、6年生になると、インドの子どもが転校してくるというストーリーなのですよね。このあたりは自分たちが英語を学んだときに比べると、例えばアジア、インド方面など、いろいろな国の人たちが登場人物として関わってくるというストーリーになっているところが、昔とはかなり違うという気がしました。実際に今、クラスで外国人の子どもたちが一緒に勉強するような時代になってきて、この辺をどう評価したらいいのか、評価するポイントとして考えた方がいいのかどうかという点について、よろしければご意見をお聞かせいただきたいと思います。

(英語調査委員長) 今は日本語を母国語としないお子さんも教室の中にいらっしゃる中で、どのようにしていくのが自然かということでは、今おっしゃった光村図書は良いと思います。ただ、あまりそのようなキャラクターのことについて十分な議論をしていないため、今のご質問には正直に言ってお答えしかねる状態ではあるのですが、おっしゃることは本当によく分かります。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他ございませんでしょうか。

(選定委員) 今のご質問にあったように、いろいろなキャラクターが本当に英語圏に限らず、どの教科書もアジアのお子さんが出てきたりして、その辺の配慮はどの教科書もされているのかなと思って見させていただきました。

質問ですが、金沢市が国の標準実数を上回って82時間を取って学習していくという意味では、インストラクターの力に頼るのではなくて、やはり担任がうまく教科書を一つの教材として指導していく必要があるかと思うのです。そのときには音声や映像資料がものすごく大事かと思うのですが、各教科でもQRコードが付いていたり、URLが付いていたりするのですけれども、検討された中で、この教科書の音声教材または映像資料がすごく活用しやすいとか、工夫されているといったご意見がもしあったら、聞かせていただきたいです。

(英語調査委員長) 調査委員会の中で十分、みんなで聞いたり見たりすることはできなかったのですが、各者ともQRコードが付いていて、すごく担任を助けてくれるなと思って見ていました。中でも東京書籍はとてまたくさんのQRコードが付いていて、200カ所あるという県の調査の結果が載っていました。さらに「映像を見る」と「聞く」が選べるのです。お手元の6年生のUnit 1をお開きください。「映像を見る」方から見ていただきます。

<動画上映>

(英語調査委員長) このような感じでかなりのボリュームの英語を見ることができます。もう一つは同じ導入なのですが、聞くということも選択できるようになっています。ただ、今もこのようにスムーズに映らない状態なので、教室でどうかという心配はあります。

<動画上映>

(英語調査委員長) この場面では1人の自己紹介を30秒弱聞き続けます。子どもたちが聞きながら何となく概要が分かり、この単元でこういうことができるようになったらいいなとスタートするという活用方法が考えられます。

また、東京書籍は下の方にいろいろな活動が組み込まれていますし、上のところにも先ほど紹介した歌やチャンツがあって、こういうものもショートタイムで活用できます。82時間という金沢市独自の部分も、担任でもこれだけの教材があれば何とかなるのではないかと考えています。もちろんインストラクターと授業をしていますから、そのときもインストラクターの英語だけではなくて、いろいろな英語を聞かせるためにも、私はとても良いなと思って聞いたり見たりしていました。

(選定委員長) よろしいでしょうか。

(選定委員) 私も関心があって、教科書展示のときに各者いろいろ見てみたのですが、中には本当にメインのフレーズしか出てこないようなところもあったので、このように映像があって、しかもターゲットのフレーズだけではなくて前後もボリュームがあって、非常に子どもたちの聞く力も育ってくるのかなということで、工夫されているなと思いました。

(選定委員長) 他にご質問はいかがでしょうか。

(選定副委員長) 2点、お願いします。教科書によって、教科書そのもの書き込んでいくタイプのものでそうではないものがあるかと思います。教科書にどんどん書いていくということを授業の形で想定できるかどうか、今はどのようにされているかによって、どの教科書が良いかというのは何種類かパターンが分かれそうだなと考えました。

それから、幾つか見てみると、『CROWN Jr.』は6年生の最後の方で、グループで情報をまとめてプレゼンをしたり、動画を作ったりするという独自の活動場面があって、他は基本的に1人が誰かに対してプレゼンや会話をするという形のものが多かったように思います。学習活動のイメージや評価はどのようにされたかをお教えてください。

(英語調査委員長) 1点目の学習カードや書き込むということについてですが、今は担任やインストラクターが作ったワークシートを使った授業が多いように思います。もちろん副読本に書き込んだりもしているのですが、子どもたちそれぞれに書かせるときにはもっと言語を入れたいという思いで作っていることが多いのですけれども、今回は書き込む教科書も多くて、後ろにもいろいろなカードや、名刺にするようなものとか、いろいろ工夫がされています。

私がすごく気になったのは、そういう学習の足跡が残っていくかどうかということなんです。先ほどご紹介しました東京書籍は使ったものをまた貼っておくことができるので、もう1回使えるという良さもあっていいと思いました。他者についても、教科書に書き込むことで学びが残っていくので、いろいろな教科を持っている担任にとっても、できるだけ教科書そのまま授業ができることが望ましいのではないかと感じています。これが1点目です。

2点目は『CROWN Jr.』の「JUMP」のところをご質問いただいたと思うのですが、あれはやはり本当に特徴的で、プロジェクト型というか、子どもたちが「JUMP」の一つ目でお友達とやって、次に同じような内容なのだけでも、相手意識を変えてもう1回やるということで、これは2番の思考力という観点ですごく良いと思っています。ただ、金沢の子どもたちは今、こういう学習スタイルをあまりやっていないので、このような経験をどのように感じるかということはあると思います。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 今日、午前中に中学校の補充教室のお手伝いに行って、まさしく中学校の英語の教科書を見てきたのですが、小学校との違いが私の中では大きく映ったので、中学校への上手な、スムーズな展開を図るのに注意されて見られた点があるなら、お伺いできればと思います。

(英語調査委員長) 中学校へ行く前に、小学校では英語を学ぶことが楽しい、お友達と会話することが楽しいという経験をたくさん積ませて、英語の勉強をしたいという気持ちで中学校に上げるために、いろいろなアプローチがあると思うのです。本当に各者それぞれの取り組み方が教科書に表れていると思っています。スモールステップで学習する、4技能をどのように入れていくかというところを考えていく必要があると思います。例えば、開隆堂は文字のページをまとめて後ろに持っていますよね。これもすごく特徴的で、これがもしかしたら合うお子さんがいらっしゃるかもしれませんが、これを嫌だと思うお子さんもいるかもしれません。そのように考えると、4技能・5領域あるのですが、そういうところをうまく取り込みながら、子どもたちがやりたいと思うような学習活動を組んでいる教科書はどれだろうというふうに考えました。ですから、ゲームを主体でやっている教科書もあったかと思いますが、「〇〇をしよう」とか、そういう学習活動がまずあってから友達と実際にやりとりするという教科書もあったかと思いますが。そこを私たちの方では「こちらの方が良いね」という議論をしながら進め、報告書に反映しました。お答えになったでしょうか。

(選定委員長) よろしいでしょうか。それでは調査委員長、ありがとうございました。

<調査委員退室>

(選定委員長) 続いて事務局より、各学校の研究委員会報告および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。

(学校指導課長) それでは報告いたします。資料Bの12ページをご覧ください。各学校における教科用図書研究委員会調査研究報告書において、東京書籍については項目1や項目5が全発行者の中で最も多くの意見が挙げられ、意見の総数も最も多くなっています。開隆堂については項目4が全発行者の中で最も多くの意見が挙げられています。学校図書については項目1や項目5に多くの意見が挙げられ、項目2では全発行者の中で2番目に多くの意見が挙げられています。三省堂については項目3が全発行者の中で最も多くの意見が挙げられています。教育出版については項目1や5に多くの意見が挙げられており、項目5では全発行者の中で2番目に多い意見が挙げられています。光村図書については項目2が全発行者の中で最も多くの意見が挙げられており、項目1では全発行者の中で2番目に多くの意見が挙げられています。啓林館については項目1や項目5に多くの意見が挙げられています。

続いて、資料Cの3ページの右下をご覧ください。常設展示においては、英単語の数についてのご意見を頂きました。また、7ページの右上をご覧ください。移動展示においては、関心を高める工夫についてのご意見を頂いています。

以上で報告を終わります。

(選定委員長) では、英語について審議したいと思います。答申のための報告書に付け加えたらよい点や、修正・削除したらよい点など、ご意見を頂ければと思います。

特にご質問いただいた内容も含めて、項目に反映されているか、項目のどこに入るのかという部分もあるかと思いますが、ございませんか。感想も含めて結構です。

ご専門の委員がいらっしゃいますので、何か感想なりコメントなりを頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

(選定委員) 5年生の教科書の巻末に5年生で習った単語、6年生の教科書の後ろに6年生で習った単語が付くという国語の漢字のような形ではなくて、やはり先ほど委員長もお話しされていたように、自分のことを伝えるためにはそこに載っていない語彙も求めてくるのが金沢の子どもたちかなと思っています。そういう意味ではこの「Picture Dictionary」のような、小学生なりに辞書的なものがあったら、子どもたちは語彙が豊かになっていくのかなと思いました。これは別冊になっていることで使いやすい部分もあるのではないかと思います。

また、先ほどの映像資料等ですが、子どもたちが授業だけではなくて家庭でも聞くことや見ることができて、家庭学習も充実してくるだろうし、もっと学びたい子は先を学ぶこと、予習もできて、もしかしたら学校に足が向きづらいお子さんも自宅での学習が可能になるということで、そういうものがウェブで見られるということはどの子にとっても非常に良いことなのだろうと思います。そういう意味では、教科書のみならず、やはり英語というのはコミュニケーションですから、耳で聞いて、目で見て、推測しながら理解していく、分からないところがあっても何となくつかんでいけるような子どもたちにしたいので、重視していきたいと思って見させていただきました。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 私も同意見で、子どもたちは学習で学んだことをやはり自分なりにいろいろな生活の場面で使ってみたいと思うものかなと思っています。そのように考えたときには、東京書籍の「Picture Dictionary」は単語だけではなくて日常英会話、「こんなときどう言うの?」も非常に参考になるでしょうし、子どもにとってはすごく活用力というか、手助けになっていくので、英語好きな子だけではなくて、少し英語が苦手な子にとっても、この「Picture Dictionary」は大きな助けになるのではないかなと思って見させていただきました。

(選定委員長) ありがとうございます。

(選定委員) 昨日からもQRコードのところで話題によく上がるのですが、QRコードの付き方として、教科書の巻頭や目次等にQRコードが付いていて、そこから探してくれというのは、子どもが自分で使う上では使いにくいと思うのです。付いているのが当たり前になってきた後は、そのページの必要なところにすぐに直接飛べるようなQRコードが付いているという点では、今の「Picture Dictionary」も全部の項目に付いていますし、教科書の各ページにそのページからつながるものが付いているという構成になっているのは、とても活用しやすいという気がしました。

もう1点、感想なのですが、世界を表す写真の中に『NEW HORIZON』の5年生を1枚開くと、金沢の暗がり坂の写真が載っているのはうれしいなと思いました。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ご感想も含めて、質疑応答でも、東京書籍の評価が高いように感じました。報告書にもそれはある程度反映されているというか、高い評価がされているので、特に修正等はないでしょうか。

では、確認させていただきます。報告書Aの内容については、特に修正等のご意見はございませんでしたので、調査委員会の報告書の内容を尊重するとともに、先ほどの市民からの意見に傾聴し、英

語における教科書採択の答申をこのように作成したいと思います。よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。続いて、社会について審議したいと思います。

⑨社会

<調査委員入室>

(選定委員長) 調査委員長から報告をよろしくお願ひいたします。

(社会調査委員長) 社会科は3者の発行者について調査いたしました。それぞれの特色を説明いたします。

まず、東京書籍についてです。調査項目9の『自分で みんなで 考える 金沢型学習スタイル』に基づく学習が展開できるような構成や工夫が図られている」というところがとても優れていました。5年の上の教科書の24、25ページをご覧ください。どの学年でも、このように社会科の学習の進め方を示したページが最初の方にあります。「つかむ」「調べる」「まとめる」の順で示され、どの単元も問題解決的な学習が進められるよう工夫されています。

76ページをご覧ください。「米作りのさかんな地域」の学習を例に話をします。左上に「つかむ」と記されています。まず、資料を基に学習問題を作る学習をします。学習問題は80ページの下に書かれています。「庄内平野が・・・」というところです。81ページには学習問題についての予想や学習計画が示され、子どもたちが見通しを持って学習できるようにしています。82ページをご覧ください。82ページには「調べる」が明示されています。2ページ構成で、資料や本文を基に学習できるようになっています。しばらく「調べる」のページが続いて、92ページに「まとめる」と明示して、まとめる学習を載せてあります。このように「つかむ」「調べる」「まとめる」を全学年で明示しているのは東京書籍だけであり、見通しを持って子どもたちが学習し、力を付けられるようになっています。また、学習計画を立てる教師にとっても非常に参考となると私たちは考えました。

次に、教育出版についてお話しします。教育出版に関しては、調査項目1「基礎的・基本的な知識や技能の習得のため、学習内容を確実に身に付けることができるような記述の充実」が優れていました。6年生の教科書の110、111ページをご覧ください。鎌倉幕府と源頼朝について学習する時間ですが、この時間に習得すべき用語を「キーワード」や「解説」として示してあります。例えば征夷大将軍は、本文外のところでこのように示されています。111ページには鎌倉幕府、御恩と奉公というのが「キーワード」欄で示され、内容については本文外で説明してあります。そして、114ページをご覧ください。まとめの学習でも、「キーワード」や「解説」の言葉を使って振り返る活動が設定されており、それによって大切な語句を繰り返し学習できるようになっています。全ての単元がそうなっているので、知識の習得ができるよう工夫されています。また、どの学年においても、資料を読み取る技能を習得するための「学びのてびき」も示されています。

次に、日本文教出版についてお話しします。日本文教出版は調査項目7「本文の内容、挿絵、写真及び図等の扱いが、児童の発達の段階に適しており」という点で優れていました。5年生の教科書の144～147ページをご覧ください。見開きになっているので、中を広げてご覧いただくことになります。自動車ができるまでの様子を、写真やイラストを使って表しています。まず、できるまでの様子を見開き2ページで示し、写真も大きく掲載しています。さらに他者にはない組み立て工場の様子を、写真ではなくイラストを使ってこのように表現することによって、児童が工程を理解できるよ

うに工夫しています。

続いて、172、173ページをご覧ください。日本の輸入の特色を児童が地図やグラフから読み取りやすいよう、他者と比べて工夫しています。172ページの資料は矢印を使って、つながりやその深さを一目で分かるよう工夫して示してあります。また、173ページのグラフは大きく見やすくなっていて、数字も他者と比べて大きくなっています。この他の資料においても同様になっています。そういう点で日本文教出版は優れていると考えています。

3者についての説明は以上になります。

(選定委員長) ありがとうございます。ご質問等はございますでしょうか。

では、私から。先ほども説明があって、多分、項目1、2ぐらいに関わってくると思うのですが、特にまとめのところで、東京書籍の方は私が見ても文章で書くようなことが結構あるかと思えますけれども、教育出版と日本文教出版の方は割に単語であったりすることが多いと思います。やはり子どもたちには文章できちんと書ける力というのが今は求められている部分があるかと思うのですが、その辺での各者の比較で何かコメントや議論されたことがありましたら、お願いします。

(社会調査委員長) 3年生で農家の仕事について学習することがあるのですが、それについてのまとめ活動で、3者を比較してお話ししたいと思います。東京書籍の3年生の教科書51ページをご覧ください。ここでは、調べた農家がつけているイチゴの宣伝シールを作ろうということで、子どもたちがイチゴを工夫して作っているところを自分の言葉で表現して伝えるというまとめの活動をしています。

次に教育出版では、同じ農家のところですが、3年生の教科書の89ページをご覧ください。農家の仕事と自分の暮らしをつなげてまとめる活動が示されています。教育出版のまとめ活動の大きな特徴として、つなげて考えるということが挙げられるかと思えます。

次に日本文教出版ですが、3年生の教科書の65ページをご覧ください。日本文教出版の特色は、まとめのところで話し合う活動をこのようにイラスト入りで設定してあることです。どのような工夫をしていたのか、そのことからどのようなことを考えたのかということ、このように吹き出しを使ってイラストで表しています。

3者ともにそれぞれの特色がありますが、金沢の子どもたちには、やはり一人一人が思考してさまざまな方法で表現できる東京書籍がより合っているのではないかと私たちは考えています。

(選定委員長) ありがとうございます。他の委員の皆さま、いかがでしょうか。

(選定副委員長) お聞きします。私もよく学校に訪問させていただいたときに、社会科で付けてほしい力として資料を読み解く力についてお話しさせていただいています。例えば各者の5年生の教科書を見ていくと、東京書籍は必ずグラフ等が左下にあたりして、目線を誘導していくような流れになっています。一方で、例えば日本文教出版はすごく大きなグラフがどんとあって、いずれも甲乙付け難いというか、非常に学習の使い方として工夫ができるのかなと思うのですが、資料の読ませ方等についてどのように評価されたのかをお教えてください。

(社会調査委員長) まず大きくて見やすいという点では日本文教出版が一番だと思います。東京書籍もそれなりに工夫はされていると思います。読み取りの技能については、どの教科書においても学び方が示されているページが必ず付いています。例えば東京書籍の5年生の上をめくっていただくと、「学び方コーナー」というものが示されています。どの教科書においても、このようにグラフ、地図、土地利用図、写真の読み取り方が付いています。同じく教育出版の5年生の教科書を開いてください。

教育出版では「学びのてびき」というふうに示されており、同じようになっています。そして、日本文教出版の5年生の教科書においても、2枚めくっていただくと「学び方・調べ方コーナー」というものがあって、それぞれの技能について学ぶページがそれぞれ示されています。これはどの発行者も同じです。

(選定副委員長) ありがとうございます。

(選定委員長) 他にいかがでしょうか。あとは東京書籍だけが上下に分かれていて、軽くなるという利点があるのですが、何かマイナスの点などはございますでしょうか。

(社会調査委員長) マイナスの点はないかと思っています。われわれの調査委員会でも上下に分かれているのはどうかということが話題に上がったのですが、例えば6年生の「政治・国際編」の方でいろいろな日本と関係の深い国について学習するのですが、そのときにその国とどのような歴史のつながりがあったかを調べたい場合には、そのときだけ「歴史編」の教科書を持ってきて一緒に調べることにすれば、いくらでも上と下、歴史編と政治編というふうに分かれていても大丈夫かとは思っています。

(選定委員長) ありがとうございます。他の委員、いかがでしょうか。

(選定委員) 今、ご説明いただいた中で触れられていることは、教科書に書かれている内容がどのくらい、どう分かりやすいかという説明が中心になっているかと思うのですが、社会科は教科書に対して保護者や地域の方などからの意見が非常に多い教科書かと思います。特に教科書の内容というのは、準備の関係で、本当に最新の情報が載ることにはならないわけですが、特に昨年、今年と、どんどん変わっていることであるとか、そういうものをどの程度、実際の授業に反映していくかということは一課題になるのかなと思います。そのような中で、例えば天皇の話で、生前退位をされて皇室のいろいろなものを実際にリアルタイムで見ることができたということは、教科書に表れてこないことであるかと思います。例えばそういうことを授業としてはどうやってキャッチアップしていくのか、例えば天皇の話や今日もニュースであった領土・領海問題など、そのあたりの記述は多分、教科書としてはこのぐらいのボリュームになるのかと思うのですが、どのように2020年度の中で使っていくことを想定しているのか、また、どのあたりをどのように評価して今の形になっているのか、内容についてお聞かせいただければと思うので、よろしくお願いします。

(社会調査委員長) 日々変わっていくものをどう扱うかというご質問かと思います。教科書はその教科書ができた時点での記述がされています。最新のことを学習しようと思うと、それは教師が資料を作って子どもたちと一緒に学習することになります。ただ、統計やグラフ等については、どの会社も毎年、最新のものに入れ替わって表示されるようにはなっています。

領土と領海、特に領土問題ですが、これについては3者とも同じように5年生、6年生で扱っていて、3者とも同じような表現がされています。これについても、今後、変わっていくことがあれば、それに合わせて先生が新たな資料を作って学習することにはなると思います。

(選定委員) 確認ですが、教科書を作った時点での情報がまとまっているところを最新の情報とするときは、授業で先生が追加の資料を作ってやっていくような使い方になるということでしょうか。

(社会調査委員長) はい。

(選定委員) もう1点、「日本とつながりの深い国々」というところで、これはたくさんあると思うのですが、各者の教科書で取り上げている国が少し違ったりすることもあるかと思うのです。このあたりについては、この会社はこういう取り上げ方をしているという、その選択している国について何か検討の中で言及があったか、その特徴についてどのように考えられたかということは何かありますでしょうか。

(社会調査委員長) 調査委員会の中では特にその点について話はありませんでしたが、大体よく扱われているのはアメリカ、中国、韓国、それからサウジアラビア、ブラジルあたりになります。その教科書の中で詳しく載っている国として4カ国ほどの教科書もあるのですが、それ以外に取り上げている国もあるので、おおむねどの発行者も同じように国は取り上げていると思います。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。では、調査委員長、ありがとうございました。

<調査委員退室>

(選定委員長) 続いて事務局より、各学校の研究委員会報告および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。

(学校指導課長) それでは報告いたします。資料Bの3ページをご覧ください。各学校における教科用図書研究委員会調査研究報告書において、東京書籍については項目2から項目5の4項目が3者の中で最も多くの意見が集まっており、意見の総数も最も多くなっています。教育出版については項目1や項目2に多くの意見が挙げられており、意見の総数は3者の中で2番目に多くなっています。日本文教出版については項目1や項目3が3者の中で最も多くの意見が挙げられております。

続いて、資料Cの1ページ右側をご覧ください。市民の皆さまからは記載内容や学習の順番、政治、国際、歴史などの視点からのご意見があり、各発行者に対するさまざまな意見が2、3ページにあるように多数寄せられています。同じく6ページの左下をご覧ください。市民の方から採択する教科書についてのご意見を頂いています。

以上で報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。では、社会科についての審議を行いたいと思います。答申のための報告書に付け加えたらよいと考える意見や、修正・削除したらよいというものがありましたら、お願いいたします。特にないようでしたら、ご感想も含めて、何かございましたら。いかがでしょうか。

先ほども少しご意見がありましたが、社会科の内容については、市民や保護者の皆さんもいろいろなご意見がおありで、情報が偏らないような、あるいは逆に情報が欠損してないようなことを期待されている部分があると思います。

(選定委員) 教えていただきたいという方が強いのですが、今、保護者代表の立場で参加して、やはり保護者が教科書採択の展示を見たときに一番意見が集まるのが社会科なのだということももう如実に表れている結果なのかなという感じがしています。ですから、それがこの審議の場での程度議論されたかということは、おそらく関心のある方は議事録を見ることになるのだろうという

気がしています。

学校で教える社会科としてどこまでを議論の対象とするか、例えば教科書に記載する内容は誰が責任を持って決めていて、採択する現場でどういうレベルまでを議論するべきで、どこからどこまでが学校教育の話で、それ以降どこまでが家庭教育の分野なのかという境目が分からなくて、どういう質問をしているのかが分からなかったのですけれども、少なくとも今のこの現場において常設展示等で挙がっている質問についてどの程度議論するべきで、どこから先は家でという話になっているのか、簡単に教えていただければうれしいと思います。

(選定委員長) 難しい問題ですが、文部科学省の検定は通っているので、学習指導要領に準拠した内容にはなっていると判断できようかと思えます。その中で、教科書会社によっては強調している内容もあれば、情報的にお互いを比較すると、こちらの教科書の方が詳しいということはあろうかと思えますし、書きぶりによっては強調した観点があたりなかつたりする部分はあると思えます。あとは使う側として、社会科を教えるときの先生方の使いやすさ、あるいは子どもたちの学習、先ほども問題解決的な、自分の考えを最終的にまとめていくというお話がありましたが、そういうことになろうかと思えます。また、内容について、どこを強調するかというのは学校の先生の授業方法にも裁量されている部分があるのかなと思えます。詳しく書いていただいているコメントもあって、「ああ、なるほどな」と思うような部分もありますが、そういう意味では、重みは違うけれども、学習すべきことは書かれているだろうと判断できようかと思えます。

あとは委員の皆さんで、この教科書のこういう部分の表現は学習しにくいのではないかとか、そういうものがありましたらコメントを頂いて、ただ、それはやはり一部分だけではなくて総合的に判断された方がいいかと思うので、教科書の一部だけを挙げて、社会科は4年間学習しますが、そこだけを学習しているわけではありませんから、その辺も総合的にわれわれが判断すればいいのかなと思っています。もちろん細かい部分でも、問題点とか学習しにくい点があったら、挙げていただければとは思っています。いかがでしょうか。

(選定委員) 今ほどの委員長のお話であったように、金沢型学習スタイル、いわゆる問題解決的な学習の定着ということで、「つかむ」「調べる」「まとめる」ということが各単元においてきっちりと明示されているのが東京書籍で、このような学習を繰り返す中で社会的なものの見方というか、考え方が各学年のいろいろなところで子どもたちにおいて育まれていくのかなと思いました。

併せて、東京書籍だけが全学年で石川県や金沢市に関連した教材を掲載されていて、ここもある程度、金沢で学ぶ子どもたちにとっては自分たちの社会科の教科書に自分たちのことが載っているということも興味・関心を引く一つの好機になるのかなと思って、拝見していました。

(選定委員長) ありがとうございます。他に感想も含めて、何かございますでしょうか。

(選定副委員長) 今のお話にもありましたように、今は、社会科の教科書を覚えて学ぶという授業から、教科書を使いながら問題・課題を持ち、学んでいくという形に大きくシフトしてきており、今回は特にそういう傾向が強くなってきていると改めて感じました。表やグラフ、写真や図、その基となる文章が非常に効果的に使われていると考えています。金沢も、これまで社会科の取り組みを丁寧で作ってきているところですが、その中で考えていったときに、自分で調べて、考えて、まとめていくという流れでいくと、例えば東京書籍は使いやすい形になっているのかなと感じました。

それから、市民の方からご意見が出ているところの一つで言うと、仁徳天皇陵の扱いなどは、どちらが括弧でどちらが先かということはあるのですが、このあたりは自分でもさまざまな情報に触れて考えていくというところを通して補正をかけていくというか、今度、世界遺産にもなったりしている

ので、そういうところで学んでいくようなことを普段の学習の中で丁寧に行っていくことが求められるのではないかと感じたところです。教科書で学び方を学び、そこから自分でもさまざまな資料に触れて、それらを読み解きながら問題に対して取り組んでいくという社会科で付けたい力をしっかりと培っていくことができるのではないかと考えています。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他に感想も含めて、いかがでしょうか。

(選定委員) やはり金沢の子どもたちの分かった・できたをまとめるというところで、社会科のまとめを子どもたちが自分でまとめていけるような力を最後に付けたいと思っています。教科書を見たときに、東京書籍と教育出版はまとめのところで「キーワード」というものが挙げられています。よく教師も構造的な板書ということで、今日学んだキーワードがしっかりと子どもたちの目に浮き彫りになるような板書を工夫するのですが、こういったキーワードを用いてまとめられるということが、一つ力になるのかなと思います。そのように見ると、日本文教出版は吹き出しが幾つもあるのですが、子どもがまとめる時の手掛かりとしては、ちょっとまとめにくいのかなと思いました。そういう目で教科書をこれから見ていけばいいかなと思っています。以上です。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。今、ご感想と多少ご意見も含めてありましたが、調査報告の方には先ほどの質疑応答のときにもありましたように反映されているかと思しますので、特に修正等はないということでよろしいでしょうか。

それでは、確認いたします。報告書Aの内容については、特に修正等のご意見はございませんでしたので、調査委員会の報告書の内容を尊重するとともに、先ほどの市民からの意見に傾聴し、社会における教科書採択の答申をこのように作成していきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。続いて、地図について審議いたします。

⑩地図

<調査委員入室>

(選定委員長) では、調査委員長からご報告をよろしく願いいたします。

(地図調査委員長) 令和2年度から新しい指導要領の実施となります。地図帳については、情報を適切に調べ、まとめる技能を身に付けることが目標となっています。また、地図帳の活用は4年生からではなく3年生からとなります。地図帳を活用して調べるということ、また、3年生からの使用への対応という、改訂となるこの2点を中心に東京書籍と帝国書院の良いところ、特色を説明させていただきます。

最初に東京書籍です。83、84ページをご覧ください。調査項目3になります。都道府県の統計では基礎的な情報に加え、右の方にあるように、主な伝統工芸品や郷土料理などを多く取り上げています。金沢箔や金沢仏壇なども取り上げられています。

次に調査項目の4です。79、80ページです。日本の歴史や文化では、国内の世界遺産、文化遺産、自然遺産ともに全て写真で紹介されています。それから、各地の歴史的名所や祭りなども紹介されています。

次に調査項目の5です。97～99ページです。見開きで、災害を多数取り上げています。それから右下の方になりますが、ハザードマップで防災意識を高めるようにしています。災害の数については30ほど取り上げられています。

次に15、16ページをご覧ください。日本の領土等についてですが、日本の面積や島の数等もここに明記されています。

次に調査項目の7です。37、38ページです。比較しないと分かりにくいのですが、地名の文字や地図記号を少し大きくしています。それから、色調のコントラストをやや強くし、めりはりを付けた記載となっています。以上が東京書籍の良い点です。

続いて、帝国書院です。7ページを開いてください。この7～14ページは3年生に対応した地図帳の使い方の解説となっています。新設されています。

次に15～18ページです。ここは従来どおり、4年生以上での地図帳の使い方について解説があります。地図帳を初めて見る3年生にも対応した解説があるところが非常に良いと思っています。

次に103、104ページをご覧ください。東京書籍でもありました都道府県の統計ですが、基礎的な情報に加え、ふるさと自慢として兼六園や輪島朝市なども取り上げています。注目すべきは、その右下に産業のグラフが出ているわけですが、食器用陶磁器や漆器等は石川県の生産が多いということで、ここに石川県が出ています。

次に91～94ページです。まず、91、92ページをご覧ください。東京書籍と同じように災害を取り上げています。違うところとしては、左上の方ですが、年表となっています。その年表と対応させるように日本地図に記載がされています。また、93、94ページをご覧ください。ここでは防災の備えについても紹介がされています。

次に29、30ページをご覧ください。新しい指導要領では、日本固有の領土についても触れるということになっています。帝国書院は日本固有の領土ということできっちり明記されています。

次に19ページをご覧ください。19ページから28ページにかけては、3年生、それから4年生のために「広く見わたす地図」というものが新設されています。ご覧のように、情報量を少し落としています。中学年には十分な情報量となっています。これについては、従来の詳細な地図を見ますと、3年生では「これは何だ」「情報が多いな」と地図嫌いになる子もいるわけですが、そこへの対応として良いと思っています。

次に51、52ページをご覧ください。東京書籍よりは少し地名等の文字は小さくなっていますが、文字の周りに縁取りが付けられており、その分、明確に見えるようになっています。それから、黄緑色を加えた多色刷りで明るく鮮やかな色調になっています。

次に59、60ページをご覧ください。キャラクターを使い、何をどのように調べるのかが示されています。注目すべきは、その下の「地図マスター」というところです。ここには子どもたちが調べること、考えることが端的に示されています。社会科における見方・考え方が身に付くよう工夫がされています。このようなキャラクターや「地図マスター」は多くのページで活用されています。

以上で説明を終わらせていただきます。

(選定委員長) ありがとうございます。委員の皆さま、ご質問等をお願いいたします。

(選定委員) QRコードが帝国書院の方に付いていたかと思うのですが、この地図帳のところにあるQRコードには内容的にどのようなものがあるのでしょうか。

(地図調査委員長) 8ページをご覧ください。矢印のところに「トライ」という問題があります。地図の使い方について、これをやっていけば活用能力が身に付くようになっているわけですが、QRコードを読むと、この「トライ」とは違う問題などが出てきます。また、12ページをご覧ください。

ここに地図記号が載っているわけですが、QRコードからは、この地図記号をクイズ形式で、ぼちっと押すと答えが出るような形になっています。他にも、地球儀の使い方等についての動画紹介や、統計資料等では、例えば米の生産量が多い順に都道府県が並んでいる資料が載っています。さらに地図の索引について、動画でこのようにやるのですよという解説が出てきたりして、工夫されています。

(選定委員長) 地図そのものにあるQRコードは、地図が詳しく見られるとか、そういうものではないのですか。

(地図調査委員長) 例えば51ページに中部地方の地図が出ていますが、このQRコードを読むと、白地図が映し出せるようになっています。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

(選定委員) 3年生から地図を使うことになるということだと思いますが、3年生は授業などを見ていると、右も左も、上も下もなかなか分からない状態が現実としてあるかと思えますから、使いやすい地図帳ということが一つの大事な視点かと思えます。そのときに視点の1のところに、先ほど帝国書院について3年生専用の使い方についての説明というお話があったと思うのですが、東京書籍も同じように書かれていますけれども、どうも読んでいくと、帝国書院の方が良いような感じに書いてあるように私には思えました。比較で言うとする、やはり帝国書院の方が3年生にとっては使いやすいということでしょうか。

(地図調査委員長) 帝国書院の7ページ、8ページをご覧ください。まず、地図というものは斜め上から見たものではなくて、真上から見た土地の様子を、記号等を使って表すものが地図であるということが左の方に書いてあります。そして、8ページの右上には「トライ」ということで、これを行っていきくと地図を活用する力が付いていきます。さらに次のページをめくっていただくと、ここからは「地図のやくそく」ということで、1番に方位のこと、2番に方位を読み取るということ、次の11、12ページに行くと地図記号のこと等が、このように非常に分かりやすく丁寧に説明されています。

続いて、東京書籍です。東京書籍の7、8ページをご覧ください。これも斜め上から町を見ています。次のページへ行くと、10ページの右上に書いてありますが、真上から見ると地図になるということで、この辺までは帝国書院とさほど変わりはないかなと思っています。次に13、14ページをご覧ください。ここは今までの4年生に対応したような説明とさほど変わりはありません。

また帝国書院に戻りますが、帝国書院の場合は15ページをご覧ください。この15ページから「地図帳の使い方」が始まりますが、ここからが今までの4年生にしていたような説明になります。ですから、帝国書院では、非常に多くのページを3年生のために割いているということです。

(選定委員) 分かりました。ありがとうございます。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にご質問はいかがでしょうか。

(選定委員) 多分、高学年で使う地図で、石川県の場所について、東京書籍は北陸3県でページを取ってあるので、非常に石川県と近隣の県とのつながりが見やすい一方で、帝国書院の方はかなり端っこにあって、福井はもう切れてしまっているという状態なのです。これは授業で使う上で、特に金沢で採用するという観点から問題にはならないのでしょうか。

(地図調査委員長) まず、東京書籍の39ページをご覧ください。お話にありましたように、ここは福井・石川・富山ということで北陸3県の地図になっています。これは非常に見やすいと思っています。そして、帝国書院は51ページです。ここは中部地方という扱いになっており、北陸3県ではないです。その分、少し見にくくなっています。そして、石川県はよく見ると、次のページにまたがっていたりして見にくい部分があることは事実です。ただ、帝国書院の23ページをご覧ください。3、4年生に対応した「広く見わたす地図」のところなのですが、ここでは非常に石川県について読み取りやすくなっています。その一つの要因として、情報量が落ちているという欠点もあるのですが、新幹線、それから空港が二つあること、北陸自動車道などが非常に読み取りやすい形になっています。ですから、併せて見ると、十分にカバーはできていると考えています。

(選定委員) 先ほどQRコードの説明がありました。これは授業ではどの程度、役に立ちそうな機能なのか、それとも家庭学習で使うといいというポイントなのか、Bの報告書では4つの項目でQRコードが挙がっているので、どの程度のウエイトで評価されたのかという点についてお聞かせいただければと思います。

(地図調査委員長) 調査委員会では、授業で活用できるかという目で見させていただきました。普通の詳細な地図の方は、その地図そのものが電子データになっていたり、白地図であったりということで、活用の頻度は低いのかなと思っていたのですが、地球儀の使い方、それから索引の仕方等、この地図を活用する方法を指導するときには十分に使えるものが載っていると考えています。よろしいでしょうか。

(選定委員) 今ほどこちらで読み取りを試してみたところ、スマートフォンでは見られないのですね。最低でもタブレット、iPadだと大丈夫、パソコンでも大丈夫というところですね。家庭においてスマートフォンでも見られたらよかったという気はするのですが、そのあたりはこの評価のウエイトと併せていかがでしょうか。

(地図調査委員長) 家庭学習で地図帳を使うことは、実はほとんどありません。学校に置いていてもいいという類のものになります。ですから、学校での活用で考えたときには十分に使えると考えています。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

(選定副委員長) 直接それぞれの地図帳に関わることではないのですが、現在の教室で使っていくときに、かつては大きな掛け図を掛けて学習して、それによって例えば広く見渡すところなどが大体できたりしたと思います。両者ともにデジタル掛け図というか、デジタルの地図帳も製品としては出しているかと思いますが、これらと併用するということの検討は何かありましたでしょうか。

(地図調査委員長) 大抵、指導するときには、先生は横に掛け図なり電子データで大きく映したものを置きながら指導に当たります。なぜなら「ここだよ」と指し示すにしても分かりやすいですし、子どもにとっても「ああ、ここか」というふうになるので、特に問題ないかと思っています。

(選定副委員長) 既にだいぶ話が出てきているところですが、両者で情報の密度がかなり意図的に変えられているというか、帝国書院の方はあえて落としたものもあると思います。あとは色合いもそ

うですね。帝国書院の方は若干淡い色で入ってくるようにしている一方で、東京書籍の方は非常に精緻な描画がされていて、地図が好きの人が見ていくと、東京書籍の方も捨て難いところが出てくるのだらうと思うのですが、そのあたりについて委員の皆さんから、やはりこちらの方が使いやすいとか、こういうところも大事だという、何か補足で話がありましたらお願いします。

(地図調査委員長) 東京書籍の75、76ページをお開きください。ここには8世紀ごろの日本とアジア、次に右に行くと13世紀後半のユーラシアというふうに、6年生の歴史学習で非常に有効な資料になるようなものが77、78ページにも載っています。帝国書院の方には、このようなページはございません。この点については、東京書籍は非常に良いなということで話し合いをしていました。ただ、6年生になると資料集も持っていますので、カバーはできるかなとも考えていました。

それから、帝国書院の地球儀の使い方のところですが、先ほどから何度もお話が出てきていますが、帝国書院の73、74ページをご覧ください。ここに地球儀の特徴ということで、左下に5点出ています。東京書籍の方は4点になっています。そして、地球儀の使い方についても、説明が非常に左から右へ流れるように大きく載っており、分かりやすくなっているというところは議題として挙がっています。

(選定委員長) 他にご質問はありますか。よろしいでしょうか。調査委員長、ありがとうございました。

<調査委員退室>

(選定委員長) 続いて事務局より、各学校の研究委員会報告および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。

(学校指導課長) それでは報告いたします。資料Bの4ページをご覧ください。各学校における教科用図書研究委員会調査研究報告書において、東京書籍は項目5について多くの意見が挙がっており、項目4については帝国書院より多くの意見が挙がっています。帝国書院は項目4以外の4項目において東京書籍よりも意見が多く挙げられていますので、意見の総数も多くなっています。

なお、資料Cの市民からのご意見はございませんでした。

以上、報告を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは地図について審議したいと思います。答申のための報告書に付け加えたらよいと考える部分や、修正・削除したらよいと考えられる部分がありましたら、出していただければと思います。特にないようでしたら、感想も含めてお願いします。

(選定委員) 3年生からの活用に対応するというので2者を比較したときに、帝国書院の使い方のところがものすごく分かりやすくて、子どもたちが地図で索引を使うところなども十分に紙面を取ってあります。また、同じ中部地方を見たときに、色合いもそうなのですが、東京書籍の方は情報量がたくさんあってきついなと思います。子どもさんにとっては、帝国書院のシンプルな「広く見わたす地図」あたりを活用したりして、とても地図に興味を持てるような作りになっていて、子どもたちが地図帳を見ているいろいろなことを見つける、そういう楽しい授業が展開できそうだと思います。

(選定委員長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、確認させていただきます。質疑応答や感想も含めて、報告書Aの内容について特に修正

等はないということで、調査委員会の報告書の内容を尊重するとともに、先ほどの市民からの意見に傾聴して、地図における教科書採択の答申書をこのように作成してよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。では、10分ほど休憩をとり、その後、審議を再開させていただくということで、お願いします。

<休憩>

⑪算数

(選定委員長) それでは、算数について、よろしくをお願いします。

(算数調査委員長) 算数については、6者の発行者について調査しました。

まず、東京書籍については、学年に数回、「今日の深い学び」というコーナーがあります。金沢型学習スタイルに近い、問題解決的な学習の可視化がされているという点に特色があります。例えば、4年生下巻7ページをご覧ください。まず、右側上段のところに「問題をつかもう」とありますが、これが金沢型学習スタイルでいうところの「学習のめあてをつかみます」に当たります。双葉マークのところが学習課題になります。右側中段に「自分の考えを書き表そう」というものがありますが、これが金沢型学習スタイルでいうところの「自分で考えます」、次のページの左側に「友だちと学ぼう」とありますが、これが「自分の考えを伝え合います」や「みんなで考えを深めます」に当たり、さらに左側下の「振り返ってまとめよう」が『『わかった』『できた』をまとめます』に当たります。四葉マークが「本日のまとめ」です。そこには付けたい力や大切にしたい見方・考え方がしっかりと明記されています。この場面では、同じ数のまとめり、計算の約束というものに注目することが大切な見方となります。最後に、次のページの「学習を深めよう」はいわゆる適用問題になります。これが特色です。

続いて、大日本図書です。大日本図書については、全学年にプログラミング的思考を扱う特設ページが設けられていることに特色があります。特に1年生から4年生までは、コンピュータを使わない数学的な活動を通して、プログラミング的思考に触れる構成となっています。例えば1年生168ページをご覧ください。そこでは、「1ます すすむ」「右(もしくは左)に まわる」「2ます すすむ」という三つの動きの組み合わせによってゴールを目指すという数学的活動を取り上げています。パソコンやコンピュータを使わないものです。この後、2年生から4年生まで系統的にそのようなものがあって、高学年の5年生からはプログラミングのソフトウェアScratchを用いて、5年生では正多角形、6年生では比例のグラフを描くプログラムを作る学習へと発展させています。これが特色です。

続いて、学校図書です。こちらにも全学年にプログラムの特設ページが設けられています。ただ、先ほどとの違いはプログラミングを実際に体験できる点です。例えば1年生下巻70ページをご覧ください。「右向く」「左向く」「後ろ向く」「前に何歩進む」の四つの動きの指示の組み合わせによって、最終的にどこを向くのか、あるいは目的地に合流させるにはどう組み合わせるかという内容を扱って、そこに写っているQRコードによって実際に操作して体験できるようになっています。

また、もう一つの特色としては、学習問題、めあて、表現にも特色がありました。例えば5年生上巻81ページをご覧ください。一番下にある「本日のめあて」のところですが、「整数÷小数の計算の仕方を考えよう」ではなくて、「整数÷小数の計算はどうすればいいのかな」というふうに、思考課題といわれている形のものになっています。また、ページをめくらないと解決方法が見えないという点

が構成としての特色となっています。

次に、教育出版についてです。教育出版については、単元末の振り返りに特色があります。例えば3年生下巻48ページをご覧ください。単元のまとめで、分数の意味を4コマ漫画で振り返っています。そこでは割合分数の $\frac{4}{1}$ と量分数の $\frac{4}{1}$ リットルとの違いを、日常生活の場面でユーモラスに振り返っています。さらに、6年生の200ページから215ページにわたって、「4コマ漫画ギャラリー」として6年間の学びを4コマ漫画で振り返る構成となっています。

また、各学年に数回ずつ掲載される「算数ワールド」では、日常生活と絡めて知的好奇心に訴え掛けるような内容となっています。例えば、3年生下巻109ページをご覧ください。ここでは、カレンダーの数に見られるきまりを多角的に考察し、一番下の方には、身の回りの算数としてなるほどと思わせるような問いも用意されています。例えばこの問いなどは、子どもたちにとっては興味深いのではないかという内容になっています。

続いて、啓林館です。啓林館については、基礎的な力の定着に向けた工夫や、発展的に考える力の育成に向けた工夫に特色があります。例えば2年生上巻126ページをご覧ください。「もっと練習」のコーナーがありますが、そこでは基礎的な練習問題と発展的に考えさせる挑戦問題の2問が常に用意されていて、教科書会社の出題の意図が明確になっています。また、啓林館のもう一つの特色として、重要単元の扱い方にも特色が見られます。石川県、金沢市、日本全国もそうですが、「割合」という単元があり、かなり弱点となっています。他者は「倍」という表現を使っていますが、啓林館の教科書においては、4年生上巻で既に「割合」という言葉で単元としていますし、5年生教科書では第4単元、第5単元、第13単元、第15単元の4単元にわたって、「割合」について系統的に扱っているのが特色です。

最後に、日本文教出版についてです。各学年の下巻の巻頭には、「つなげよう！ 学びとノート」というコーナーがあって、ここでは問題解決型の学び方と関連したノート作りが紹介されています。例えば2年生下巻2ページをご覧ください。一番下段に四つの授業場面があると思いますけれども、それと対応させて見開き2ページで1時間の学習をまとめるノート作りが丁寧に紹介されています。これが基本となり、5年生になっても下巻2ページあたりにそのような目次が紹介されています。これらは文言こそ違いますが、金沢型学習スタイルに近いものだと思います。以上、6者の特に優れている点について説明を終わります。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは委員の皆さま、ご質問等お願いいたします。

(選定委員) 調査研究項目の8番のことなのですが、ここには数直線図のことについて書かれています。問題解決する際には、数直線がちゃんと自分で書けないと、問題解決ができないという算数の授業の場面がたくさんあると思います。歴史的には、どの教科書もだんだん似通ってきている傾向があるように思います。見た目にはどの教科書会社も同じように見えて、比例を背景として矢印を書くということはどの教科書もされていると思います。報告書を読むと、東京書籍のところは工夫されているということで、他のところは配慮はされているということで、東京書籍が優れているように読めるのですが、そのあたりはいかがですか。

(算数調査委員長) お話があったとおり、各者、数直線図については書き方等を工夫して掲載されています。ただ、東京書籍が優れていると思われるのは、一つは目盛りの付け方です。目盛りの付け方が、量感をしっかり捉えられるように、その数の大きさに合わせた位置に示されています。他者においては大きい数を使っているため、1ともう一つの量の場所が正確でないところがあります。また、東京書籍については、これは6年生の題材を使った数直線の書き方ですが、他者においては4年生レベルの問題で、学年が上がっても同じ数値で説明しているところがありましたので、そういう意味で

の比較においては、東京書籍が優れているという書きぶりになっています。

(選定委員長) 他にご質問はありますか。

(選定副委員長) 教科書を使う場面の一つに、授業が一区切りした後の適用問題的な使い方での簡単な押さえをしたり、あるいは発展的に取り組ませたりというときに、ここにいろいろなタイプの問題があると助かるということを感じていますが、そういった観点から見たときに、どの者のどういう特徴があるかというのを改めて教えていただければと思います。

(算数調査委員長) 問題の量的なものを比較しますと、6者ありますが、教育出版はやや多めかなと思いますし、啓林館も多めだと思います。ただ、啓林館の方は、同じページに練習問題と発展問題の形がありましたし、他者においてはまず基礎的な問題、さらに発展問題、さらにジャンプした問題というような3段階に分けたところがあるのですが、そういう点で特色はあります。ただ、質的にはそれほど変わらないと思っています。

(選定副委員長) ありがとうございます。それぞれ特徴の格差があったと思います。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にご質問はありますか。それでは私から質問します。先ほどプログラミングに関することのご報告がありました。金沢市の実情からいって、算数の時間にPCそのものを持ち込んでやるようなことまでお考えなのでしょうか。算数の中でどのようなプログラミング教育のレベルをお考えなのかということをお教えてください。

(算数調査委員長) プログラミング教育については、指導要領上では算数で明記されたのは5年生の多角形のところです。そういう観点で見ると、東京書籍は5年生・6年生で扱っています。大日本図書については、先ほど1～4年はコンピュータを使わない、5・6年はソフトを使っていると申しましたが、こちらにも正多角形については扱っています。学校図書についても扱っていますが、教育出版と日本文教出版については、教科書上ではプログラミング学習がありませんので、そこは差があると思います。啓林館は、5・6年生でプログラミング体験ができるよう配慮されています。東京書籍はScratchを扱っているので、金沢市で提供されるのはScratchと聞いていますから、そこも合致すると思っています。

(選定委員長) 金沢市で使いやすいというか、今目指しているプログラミングでの教育においては、東京書籍あたりが扱いやすい、マッチしているということでしょうか。

(算数調査委員長) はい。

(選定委員長) 分かりました。ありがとうございます。

(選定委員) 算数では、子どもたち個々の学力の差が顕著に出てくる教科の一つだと思います。6年生の比例・反比例のページを見てみると、できない子へのヒントになるような登場人物やキャラクターが出てきて、吹き出しでヒントを言ってくれていたり、東京書籍だったら色分けされて、振り返りメモなどがちりばめられているという印象があるのですが、そういった算数が苦手と思っている子に対する手だてという意味での選ばれるポイントなどがあれば教えてください。

(算数調査委員長) それについては調査委員会の議題に挙がっていないのですが、各者で一応、分からなかったらここを見るというような手だては打っています。例えば、巻末には学年の学習を振り返るというものがあって、この問題が分からなかったら、教科書のここを見るというような手だては打っています。が、どこが優れているかについては、そのときに議題に挙がっておりません。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にご質問はありませんか。

(選定副委員長) 教科書そのものの課題ではないかもしれませんが、先ほどプログラミングのところで、Scratch を使うことが想定されているとお話しになりました。Scratch はバージョンが変わって、必ずネットにつながって使うことが前提になっているものが一般に使われてくると思うのですが、そうすると金沢市の現状では、全てのクラスが同時につないでやっていくことが難しい環境にある学校もあると思います。代替の手だてを用いながらやっていくことを考えていく必要があることになってくるのでしょうか。教科書ではScratch を使うことが想定されているということになってくると、ということですが、そのあたりはどのように考えていけばいいのでしょうか。

(算数調査委員長) 学校によって環境も違うので一概には言えないのですが、授業においてそのページになったときには、個々の学校のパソコン教室へ行って学習するという形になると思います。ただ、学年がまたがっている場合については、各校の各教室間の調整と思います。

(選定委員長) ありがとうございます。他にご質問、いかがでしょうか。それでは調査委員長、ありがとうございます。

<調査委員退室>

(選定委員長) 続いて事務局より、各学校の研究委員会報告および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。

(学校指導課長) 報告いたします。資料Bの5ページをご覧ください。各学校における教科用図書研究委員会調査研究報告書において、東京書籍については項目2と項目4で、全発行者の中で最も多くの意見が挙げられています。意見の総数も最も多くなっています。大日本図書については、項目3、4、5が全発行者の中でそれぞれ2番目に多くの意見が挙げられ、全体の意見の総数も2番目に多くなっています。学校図書については、項目3や項目5が全発行者の中で最も多くの意見が挙げられています。教育出版については、項目3が全発行者の中で最も多くの意見が挙げられており、項目1は全発行者の中で2番目に多くの意見が挙げられています。啓林館については、項目1が全発行者の中で最も多くの意見が挙げられています。日本文教出版については、項目2や項目5に多くの意見が挙げられています。

続いて資料Cの3ページ左側をご覧ください。市民の皆さまから、学習内容についてさまざまな意見を頂いています。7ページ左側をご覧ください。その他、移動展示においては、教科書の大きさや書き込める良さ、数学的な見方・考え方などについての意見が寄せられています。

(選定委員長) ありがとうございます。では、審議に移ります。答申のために報告書に付け加えたらよい点、意見や修正・削除したらよいと考える意見などがあればお願いします。

(選定委員) 日本文教出版の5年生下の教科書の61ページをご覧ください。ここにプログラミン

グの話があって、先ほど説明の中で日本文教出版の教科書にはプログラミングの内容がないという報告だったかと思うのですが、5年生のここにはあるのです。報告書に書かれている内容が、プログラミングの項目が含まれていないという意味で、この部分が漏れているのであれば足さないといけないと思います。一方で研究委員会の調査報告書では、プログラミングに関しての項目があるかどうかを、「プログラミング教育関連の充実」という一言で全部同じ文言が書かれています。では、日本文教出版のこの教科書が充実しているのかと言われれば、記載はあるけれども内容としてはどうなのか、他と比べて十分なのかというところも含めて、こちらには挙がっているけれども、調査委員会の方ではなくてというところは実情と違うと思いますので、修正するかどうかの検討が必要かと思いました。

(選定委員長) これは聞かないと分からないですよ。調査委員長を呼んでいただけますか。5番目の項目になりますよね。

(選定委員) ただ、5年生にはあるのですが、6年生は見つけれなくて。

(選定委員長) ちょっと確認させてください。現代的な諸課題なので、プログラミングだけでは项目的にはないと思いますが、教育出版についても言及はされていないのです。61ページからのScratchなどはそうですね。一応されてはいますが、評価するほどのことではなかったかもしれない。それを確認させてください。他と比べてですね。

<調査委員入室>

(選定委員長) 確認をお願いします。日本文教出版の方で、5年生下の61ページにプログラミングが少し入っているのですが、これはあまり評価するほどのことではなかったのか、他の教科書との比較の関係で、この項目は現代的諸課題ですので、その辺を説明いただけますか。

(算数調査委員長) 5番については、プログラミングというものを見て、扱っている学年の数なども考慮しているのですが、大日本図書と学校図書が、パソコンを使う使わないは別にして全学年に配分されています。啓林館と東京書籍については、複数学年になっています。日本文教出版や教育出版は、先ほど間違っ「ない」と申しましたが、5年生にあります。全学年のもの、複数学年のもの、全くないか1学年というふうに分かれているので、評価自体は変わらないと判断していただければと思います。

(選定委員長) 分かりました。評価で大きく上げるほどではなかったということによろしいですか。

(算数調査委員長) はい。

(選定委員長) 分かりました。ありがとうございます。そういうことによろしいですか。調査委員長に他に何かよろしいですか。では、退出をお願いします。

<調査委員退室>

(選定委員長) 相羽委員、先ほどの箇所ですが、特に文言等の修正などは。

(選定委員) 今ほど、3段階ぐらいに評価が分かれているということかと思うのですが、それがど

う表現されるべきかというところが、研究委員会では画一的な評価ですし、そこをプラス評価するところがどこかに表れているのか、それで十分なのかどうかというところなのですが。

(選定委員長) プログラミング中心に書いておられますが、教育出版と日本文教出版については、グラフ、図についてのコメントになっています。どうなのでしょう。

(選定副委員長) あとは取り上げ方ですが、遜色ないというか、オーソドックスな書きぶりにはなっていますので、公平を期すという言い方も変なのですが、それでいくと一言触れていてもいいとは感じます。

(選定委員長) 全学年ではないのですね。複数でもなく5年生がメインなのですね。

(選定副委員長) 文部科学省が例示として挙げたのが5年生の図形のところなのです。

(選定委員長) プログラムに関するページが特設されている、配慮されているという書きぶりです。よろしいですか。

(選定副委員長) 特設の場合であれば、巻末に付けているか、本文の流れの中で取り入れているかという違いはあるかと思います。

(選定委員長) 「プログラミングに関するページが挙げられており、プログラミングが体験できるよう配慮されている」というような言葉でよろしいですか。日本文教出版のところですが、いかがでしょうか。

(選定副委員長) 特設ということで、巻末側寄りのところで挙げているということとを区別して考えるのであれば、元の通りということになると思います。どちらがいいかというところになってくかなと思います。

(選定委員長) もう1回、確認させていただきます。日本文教出版の5番目の項目で、今のこの文章には「天候による気温の変化」などと書かれています。同等にするのであれば「プログラミングに関するページが挙げられており、簡単なプログラミングが体験できるように配慮されている」ということになると思いますが、いかがでしょうか。修正するのであれば、5年生に挙げられているということですね。他の学年ではあまり挙げられていないのでしょうか。

(選定委員) 5年生で扱うということで、載っているのがベースと考えたときに、東京書籍は複数の学年、大日本図書と学校図書は全学年が特徴です。そうすると、啓林館は何年生なのか、それが複数なのか全部なのか、ちょっとそこには載っていないのですが、それで違いが出てくるのかなと思いました。

(選定委員) 5年生にはあるのは確認しています。

(選定委員長) 6年にはないですかね。啓林館と同じでしょうか。目次を見てもないですかね。啓林館は6年にはないですね。

(選定委員) 県の選定資料を見ると、5年生、6年生とか、全学年にあるとかないということがまとめられているので、これはきっと間違いないと思いますが、これを見て考えてはいかがでしょうか。

(選定委員長) ありがとうございます。教育出版も5年生では挙がっています。日本文教出版は5年生だけです。啓林館が5、6年です。教育出版も5年生だけなのですが、比較します。何ページにあるでしょうか。

(選定委員) 278ページです。

(選定委員長) 他にありますか。

(選定副委員長) あります。241ページ、228～229ページ。

(選定委員長) そうですね。ありますね。本当に少しだけですね。

(選定副委員長) ネット閲覧ということで、教材の方でさらにあります。

(選定委員長) ちなみに教科書的には、現代的課題とは違うところの評価を入れられていたのか、あまり書いていなかったの。どうしましょう。一つはそこをプログラミングの現代的諸課題ということで、併せてプログラミングについて報告を書くということにしますか。その方が報告としては分かりやすいとは思いますが、5年生でというふうに明記したものでいいかと思えます。

どうでしょうか。学年を明記したものでいいですか。日本文教出版の方は、「5年下の巻末において、プログラミングを活用した学習が可能となるよう配慮されている」ということで、教育出版もそこだけ合わせるのであれば、「5年生でプログラミングのコーナーが設けられ、プログラミングツールを用いて正多角形を描く配慮がされている」ということでいかがですか。

(選定副委員長) 今のご意見に賛成です。そのように明記して書いていくと、他のところは複数で挙げているのかという形で差異化が情報として出てきますので、それで読み取っていいのではないかと考えます。

(選定委員長) 今の確認ですが、学年を明記します。この場ですので、細かい言葉については後ほど吟味させてください。統一感を持たせるように修正させていただきますが、学年を明記して、日本文教出版では巻末にプログラミングを活用した学習が可能となるよう配慮されているということで、教育出版はプログラミングのコーナーが設けられて、プログラミングツールを用いて正多角形を描くように配慮されているという内容に修正させていただきたいと思えます。よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) そうすると、ここの項目について統一感を持って比較・評価ができると思えます。ありがとうございます。他にご意見ありますか。修正等、ご感想も含めてでも結構です。

それでは確認します。調査委員会の報告書に対して、ただ今審議された内容について先ほど指摘したものに修正を加えさせていただいて、市民からの意見に傾聴し、算数における教科書採択の答申書を作成してもよろしいでしょうか。

<異議なし>

(松原委員長) ありがとうございます。次の理科に移らせていただきます。

⑫理科

<調査委員入室>

(選定委員長) それでは、調査委員長からご報告をお願いします。

(理科調査委員長) 理科は5者の発行者について調査しました。それぞれの際立った点についてお話ししていきます。

初めに、東京書籍です。東京書籍は主体的に問題解決学習を進められるように、そのプロセスを丁寧に扱い、分かりやすく示しています。5年生の教科書の72、73ページをご覧ください。導入画面での写真や漫画は見開きで、児童が課題を見つけやすいように工夫されています。そして、72ページの下の方に「理科のミカタ」というものがあります。それを生かして児童が熟考し、対話を通して思考力・判断力・表現力を育てる場面を提示するよう工夫しています。ここでは「比べてみよう」というキーワードで、73ページの写真を見比べることによって思考を深めていくということになっています。また、73ページの右側には「学ぶ前の私」というものを提示して、最後に勉強が終わった後には同じ問いで「学んだ後の私」というものがあります。それによって自己の変容を意識できる構成となっています。

また、81ページをご覧ください。ここにも下の方に「レベルアップ 理科の力」というところがあって、そこでも「理科のミカタ」があります。問題解決学習の流れが分かりやすく示されており、ここでは変えるという条件に視点を当てることによって、学ぶべき内容や話し合いの視点が明確になるように構成が工夫されています。

続いて、大日本図書です。大日本図書は学びの定着や活用を丁寧に扱い、発展的な読み物等も充実しています。5年生の教科書の42ページをご覧ください。左側の「たしかめよう」では、どの単元でも記述式で理由を説明する問いが多く作られています。右側の「学んだことを生かそう」では、学んだ知識や技能を活用し、思考力・判断力・表現力等を育てるよう工夫されています。①では種子の袋の有効期限等を取り上げながら、学んだことを生かすような発展問題となっています。

また、53ページをご覧ください。「理科のたまてばこ」や「Science World (サイエンスワールド)」では児童が興味・関心を持てるようにさまざまな話題や日本の伝統的な内容、科学者の話題を多く取り上げるとともに、貢献した人物の写真や載せたりして、学習内容と日常生活が結び付き、興味・関心が高まるような工夫がされています。

続いて、学校図書です。学校図書は写真が美しく、歴史上の人物の写真や言葉を多く取り入れ、興味・関心を高めるよう工夫されています。5年生の教科書の74ページをご覧ください。「資料」のページの説明に伴う写真が豊富に掲載されており、自然事象を分かりやすく伝えられるよう工夫されています。隣の75ページには仕事と関連のある記述もあり、児童の興味・関心を高めるよう工夫されています。

また、各学年の表紙には歴史上の重要な発見をした日本人を含む科学者の写真が載せられ、裏表紙にはその言葉が載せられています。159ページには野口英世の伝記が載せられていますが、ここには各学年の教科書の表紙に載っている科学者のお話が入っています。

続いて、教育出版です。教育出版は理科用語を大切に扱い、学習内容の定着を図るとともに、現在の研究者や宇宙飛行士などのメッセージを伝えたり、巻末や中とじを充実させたりして意欲や関心を

高めています。3年生の教科書の46ページをご覧ください。重要語句に黄色のマーカーを付け、分かりやすく表示しています。頭、胸、腹、昆虫など、一番重要なキーワードを非常に分かりやすく伝えていきます。

同じく196ページをご覧ください。巻末にはそのことを一覧として記載して、理科用語を大切に扱い、知識・技能が確実に習得できるよう工夫されています。学年が変わっても、また見て振り返ることができる構成となっています。また、裏表紙の裏にはメッセージとして科学者の言葉が載っています。至るところにこのメッセージがあるのですが、理科への思いが高まるよう工夫されています。

最後に、啓林館です。啓林館は基礎・基本の定着や学習のつながりがよく意識されており、単元全体や発展学習、複数単元の関係付けや他教科との関連、ものづくりへの挑戦などを丁寧に扱っています。6年生の教科書の19ページをご覧ください。「ふり返ろう まとめノート」を設け、学習内容をまとめる習慣付けや、新しく学習した言葉をチェックすることができるように工夫されています。下の方にチェックする言葉が載っています。

また、22ページをご覧ください。基礎的な学習を踏まえて、「つなげよう」で日常生活との関連や発展的な内容へとつなげています。ここでは外気を取り入れる煙突効果について記述があり、発展的な内容となっています。

それから、82ページをご覧ください。「これまでの学習をつなげよう」では、学んできた複数の単元の知識・概念を整理し、関係付けながら思考する力が付くよう工夫されています。

以上、5者について調査したことをお話しさせていただきました。

(選定委員長) ありがとうございます。委員の皆さま、質問等をお願いします。

では、私から。理科は問題解決が本当に重要だと思っています。今の報告にもありましたが、学年では同じような自然を対象にしているわけですが、課題を設定するときに各者で課題設定の仕方が若干違うと思います。形式ではなくて、質的に良い課題の設定をしているところなどは分析されたのか、もし分析されていたら、どの教科書の評価が高いか、それが報告書にどう反映されたかを教えていただければと思います。

(理科調査委員長) 問題解決の過程を大切にしているということで、東京書籍がまず「つかむ」という段階をきちんとしていると思っています。学んだことを使おう、前のものを想起しながらいくという形になっています。同じく啓林館も「はじめに」や「思い出してみよう」というものがあって、そういうところでしっかりつかんでいます。

(選定委員長) 課題づくりのような感じで、同じような内容で比較はしていませんか。

(理科調査委員長) 課題づくりについては、東京書籍は児童自らが課題を作っていく形が出ており、他はやや教師が課題を設定していくところがあるのではないかというふうに見ていました。金沢型学習スタイルには「つかむ」「考える」「まとめる」という三つの段階があるのですが、それに一番近づいているのは東京書籍だなと。東京書籍の場合は「つかむ」「調べる」「まとめる」という形になっていて、「つかむ」段階が各者は問題をつかむだけのところもあれば、予想までを入れるところ、計画を別にするところなど、いろいろあるのですけれども、東京書籍が一番子どもの考えに沿っているという意味で、先ほど2ページの見開きのところで漫画と写真を提示しましたが、ストーリーを考えながら、そこで問題を自分で発見していくということが一番優れていると感じていました。

(選定委員長) ありがとうございます。他の委員の皆さま、いかがですか。

(選定委員) 8番の調査研究項目で、全ての教科書に対してプログラミング、プログラムという評価のポイントがあるかと思います。このプログラミングが来年から大きく変わることだと思いますが、そのトピックにおいて各者についてどういう評価をされたか、比較の結果を教えてくださいませんか。

(理科調査委員長) 東京書籍と教育出版を優れているという評価にしました。各者ともプログラミングの特設ページがあるのですが、目的意識ということで、東京書籍の場合は6年生の教科書の160ページをご覧ください。センサーブロックを使っているのですが、課題設定が「プログラミングを使って電気を効率的に使う」ということで、単に「プログラムを使って物を動かそう」ではなくて、そこに目的意識があります。同じように、教育出版は6年生の教科書の212ページをご覧ください。ミニ信号機と横断歩道の点滅です。このミニ信号機を作るという目的の下にプログラムを作っているというところで、「試してみよう」だけではなくて、そこに一つの目的意識があります。両方ともScratchを例に出して使っています。金沢市のベーシックカリキュラムではセンサーブロック等を用いているので、東京書籍が一番近いのではないかと見ています。Scratchを使っていることも、考え方も近いかなと思います。

他の会社も全てプログラムは設定しています。啓林館だけはコンピュータを使わないタイプのプログラミング、シールを貼るといったものを一つ使っています。また、学校図書に関しては自社製の言語でしょうか、それでプログラムを作っているの、やや違いはあります。ただ、今は東京書籍が金沢の思っているものに近いのではないかと、調査委員は審議の上で感じていました。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他に質問はございませんか。

(選定副委員長) お話の中にも出ていたかと思いますが、理科においては観察・実験をどのように書きまとめていくかということも大事にされているかと思います。各者それぞれレポートを作ったものであるとか、途中のスケッチであるとか、そういうものをさまざまな形で取り入れていると思うのですが、その観点から見た時に評価できるもの等はありましたか。

(理科調査委員長) 各者、巻末や巻頭等に学び方などが載っていて、大日本図書以外は4者ともノートの取り方が一番後ろまたは一番前に別項目としてあります。ただ、きれいなノートを單元ごとに表しているのは先ほどお示したように啓林館だけで、あとはノートまでは示していません。全体の流れの中でノートの書き方を示しているということで、そういう違いはありました。

(選定副委員長) ありがとうございます。

(選定委員長) 他にはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは退室していただいて結構です。

<調査委員退室>

(選定委員長) それでは事務局から、各学校の研究委員会報告および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。

(学校指導課長) ご報告します。資料Bの6ページをご覧ください。各学校における教科用図書研究委員会調査研究報告書において、東京書籍については項目3が全発行者の中で最も多くの意見が挙げられており、その他の4項目についても全発行者の中で2番目に多い意見が挙げられています。意

見の総数が最も多くなっています。大日本図書については、項目4が全発行者の中で最も多くの意見が挙げられています。学校図書については、項目2が全発行者の中で最も多くの意見が挙げられています。教育出版については、項目1が全発行者の中で最も多くの意見が挙げられ、意見の総数も2番目に多くなっています。啓林館については、項目5が全発行者の中で最も多くの意見が挙げられているという状況です。

続いて、資料Cの3ページ左下をご覧ください。市民の皆さまから理科で学んだことの生かし方についてご意見がありました。また、7ページ、左側中ほどをご覧ください。移動展示では単元構成や写真、教科書の大きさなどについてのご意見が寄せられています。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、理科について審議したいと思います。答申のための報告書に付け加えたらよい点、あるいは修正点、削除したらよい点など、ご意見を出していただければと思います。なければ、感想でも結構です。ございませんでしょうか。

ないようでしたら、私からお願いします。先ほど調査委員長にご質問したように、理科は具体的に自然を対象にしますので、情報量は無限大なのです。例えば国語だと教科書に書いてあることが情報のほとんど全てで、もちろん調べ活動で他にも調べるのですが、どう切り込むかによって問題解決が失敗するか、成功するかということがよくあるのです。そういう意味で課題の設定は非常に大きな要因なので、質問させていただきました。

調査委員会の報告書について特に修正などはございません。ただ、東京書籍は割とシンプルなのです。先ほど例も挙げていただきましたが、6年生の物の燃え方のところも、集気びんに挿すと火が消えるという内容です。ただ、啓林館の方はキャンプでの飯ごう炊さんの絵があって、6年生は日常生活と結構結び付けています。てこについても、てこの原理を日常生活において利用したものから入っていて、そういう意味では問題解決として日常生活やこれまでの学習などがしっかり考えられるようなところもあるのではないかと思います。ただ、形式的に言えば、おそらくシンプルに入る方が指導しやすい先生も多いのだらうと思いますから、一長一短があろうかと思います。報告書には反映されていると思いますから、取り立てて修正はありません。

他に先生方からご感想などはありますか。よろしいでしょうか。

では、確認します。特に報告書Aの内容について修正等のご意見はございませんでしたので、調査委員会の報告書の内容を尊重するとともに、先ほどの市民からの意見に傾聴し、理科における教科書採択の方針をこのように作成していきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。それでは、最後に生活科についての審議を行います。

⑬生活

<調査委員入室>

(選定委員長) では調査委員長、ご報告をよろしくお願ひいたします。

(生活調査委員長) 生活科については7者の発行者について調査しました。それぞれの特色を簡単に説明します。

まず、東京書籍です。東京書籍の優れた点は、生活科で育成すべき資質・能力を吹き出して具体化している点です。上巻の18、19ページをご覧ください。どの単元でもそうですが、学習内容と教

師の発問例をページ上段で示し、教師が指導計画を作成したり学習評価をしたりする際にも役立つようになっています。また、下段の学習家庭コーナーでは、児童が見方・考え方を生かしている姿を描き、学びの見通しを持てるようになっています。上巻の4、5ページをお開きください。スタートカリキュラムを生活科の学習活動を中心に編成し、全ての学校で適切に実施できるようにしています。ページ下段には保護者向けのメッセージを入れ、児童と保護者が一緒に教科書を開いて学校生活への期待を高めるとともに、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を具体化しています。A4サイズで巻末に本当の大きさとペット図鑑を添付し、持ち出せるようになっています。上下巻ともに「かつどうべんりちょう」を掲載したり、「いきものずかん」や「おもちゃずかん」など豊富な資料で学びを支えたりしている点も優れているといえます。

次に、大日本図書です。大日本図書の優れた点は、子どもの目線に立った躍動感のある写真が豊富に掲載され、子どもの興味・関心を刺激し、実際の活動への意欲や期待を引き出すようにしています。上巻50ページの大きなカマキリや大きなバッタの顔も引き付けられます。さらに、下巻の30、31ページと32、33ページを比較してご覧ください。前のモノクロページで「どんな生き物がいるのかな？」と問い掛け、次のページでそのページをカラーに印刷して想像力をかき立てています。また、下巻の25ページや41ページをご覧ください。紙面右端の「せいかつことば」で、子どもの語彙力向上、言語能力の向上を図っています。このような情報から言語活動の充実が図られて、思考力・判断力・表現力の育成につながり、深い学びへと導くとともに、上下巻の巻末に「がくしゅうどうぐぼこ」というコーナーを設けて、豊富な資料で子どもの学びをサポートしています。

次は、学校図書についてです。上巻の16～23ページを順にご覧ください。学校図書の優れた点は、4人の子どもたちが登場し、子ども同士の会話の中で自分の考えを伝えたり修正したりしていく過程を示しています。また、下巻の48、49ページをご覧ください。ここでも4人の人物がお互いに関わり合いながら、慰めたり対決したり多様な会話活動の様子が示されています。さらに、下巻の17ページと19ページをお開きください。「計画カード」や「インタビューカード」をたくさん掲載し、子どもの発達段階を考慮した記録例を掲載して多様な表現を示し、記録するときの目安となるように、それから先生の朱書きを入れて参考になるようにしています。

次は、教育出版についてお話しします。教育出版の優れた点は、生活科で育成する資質能力を引き出し、発信する教科書になっている点です。上巻6ページをご覧ください。生活科の目標から、「きづく」「じぶんでできる」「かんがえる」「つたえる」「ちょうせんする」「じしんをもつ」といった六つの力を引き出すことを大切に編集されています。このページに「きづく」というサイコロマークがありますが、このマークに各章単元で付けたい力を明記してあります。例えば、上巻20ページでは「なにをかんじたかな？」の横に「かんがえる」「つたえる」という力を付けることを意識して、児童も教師もめあてを持って活動することになります。21ページをご覧ください。そこにある「まんぞくはしご」の欄で振り返りを繰り返していくことで、自己の変容が可視化できるように工夫されています。巻末の「学びのポケット」では他教科との関連を明記し、合科的・関連的な指導が積極的に行われるように工夫されています。

次は、光村図書についてです。光村図書の優れた点は、どの単元でも学びを確かなものにする「ホップ・ステップ・ジャンプ」の3段階で構成している点です。下巻の6、7ページをご覧ください。「まちをたんけん大はっけん」では、「みつける」「まちをたんけんする」「ふりかえる」「これからにつなげる」と書いてあり、児童自身が学習の見通しを持ち、学びを確かにするものにするための工夫をしています。10、11ページをご覧ください。下段に「どうすれば」というコーナーを設け、その単元で特に児童自身で考えてほしい点を示しています。活動を深く豊かにするヒントとともに、「どうすればまちのお気に入りを増やせるかな？」と問い掛け、児童自身が場に応じて考えられるようにすることで、主体的・対話的で深い学びを実現するようになっています。また、児童に親しみやすいように、吹き出しなどに手書き風書体を用いたり、実物大やそれ以上の写真を用いたりして、児童の

学習への興味・関心を引くように工夫されています。

次は、啓林館についてです。啓林館の優れた点は、「わくわく・いきいき・ぐんぐん」の3段階構成で生活科の学びのプロセスを考慮し、活動の流れが分かりやすく示されている点です。上巻の2ページをご覧ください。「いくぞ！がっこうたんけんたい」の単元では、単元の導入「わくわく」で、単元扉と1枚めくって次のページの「わくわくボックス」の4ページを使い、子どもたちの意欲を喚起し、今後の活動の見通しを持たせることができるようにしています。また、同じく上巻の16、17ページをご覧ください。単元終盤の「ぐんぐん」の交流活動では、他教科との関連を巻末の学習図鑑で示して、紙面右側の「できるかな？ できたかな？」において、学び方や学んだことが確実に身に付いたかを振り返り、自分の成長や学びの深まりが自覚できるように工夫されています。さらに、紙面右下にある矢印の「めくりことば」で、活動を通しての気づきや次の活動に向けての子どもの思いや願いを例示し、見通しを持てるように工夫しています。

最後に、日本文教出版についてです。日本文教出版の優れた点は、生活科で育成すべき資質能力の三つの柱が一目で分かるように配慮されている点です。下巻50ページをご覧ください。「気付く・深める・つなげる」の点から紙面下側にめあてを示したり、吹き出しに表したりして学びを深めていけるように工夫されています。また、巻末の「ちえとわざのたからばこ」では、学び方や必要な技能、約束などが記載されている点や、単元内に織り込まれている「ポケット図かん」にはすぐに使える資料が豊富に掲載され、児童が興味・関心を持って学習に取り組むことができるように配慮されています。以上、7者について説明させていただきました。

(選定委員長) ありがとうございます。では、委員の皆さま、質問等お願いします。

(選定委員) 東京書籍で、「幼児期までに育てたい10の姿」というのはどこにありますか。

(生活調査委員長) 「どきどきわくわく1ねんせい」のページの4ページ下の方に、育てたい姿が書いてあります。

(選定委員長) よろしいでしょうか。他にご質問はございますか。私から、教科書のサイズが3種類ぐらいありますが、使いやすさなどで議論はありましたでしょうか。

(生活調査委員長) A4が結構大きいようにも感じたのですが、どうも軽い紙を使って、重さにはそれほど差異がないようにという工夫がされている点では、大きい方がいいという話し合いになりました。

(選定委員長) 大きい方がいいというのは、見やすいということで、図などが大きくなるということですか。

(生活調査委員長) 見やすいということです。図も大きくなるし、紙面が広がるのでいいということと、幼児期に読んでいた絵本のサイズでもあるということと、親しみ深いという話も出ていました。

(選定委員長) 他ご質問はありますでしょうか。よろしいですか。調査委員長、ありがとうございました。ご退席いただいて結構です。

<調査委員退室>

(選定委員長) 続いて事務局より、各学校の研究委員会報告および教科書展示会における市民や保護者の意見を報告していただきます。

(学校指導課長) ご報告いたします。資料Bの7ページをご覧ください。各学校における教科用図書研究委委員会調査研究報告書において、東京書籍については、項目1、2、3が全発行者の中で最も多くの意見が挙がっています。意見の総数も最も多くなっています。大日本図書については、項目5が全発行者の中で最も多くの意見が挙げられています。学校図書については、項目2と項目4で全発行者の中で2番目に多い意見が挙げられています。教育出版については、項目3が全発行者の中で2番目に多い意見が挙げられています。光村図書については、項目4が全発行者の中で最も多くの意見が挙げられています。啓林館については、項目3が全発行者の中で2番目に多くの意見が挙げられています。日本文教出版については、項目1が全発行者の中で2番目に多くの意見が挙げられています。

続いて、資料Cの3ページ右上をご覧ください。市民の方からは、文字や写真の工夫、学習課題についてのご意見を頂いています。

(選定委員長) ありがとうございます。それでは審議に入ります。生活について報告書に付け加えたいと思う意見や修正・削除したらいいと思う意見がありましたらお願いします。

(選定委員) 研究委員会の調査報告書で、研究項目4番に金沢ふるさと学習との関連という評価が幾つかあるのですが、金沢ふるさと学習はどのようなことを学習するのですか。

(選定委員長) 調査委員長に再入室いただき、説明していただきたいと思います。

<調査委員入室>

(選定委員) 研究委員会調査報告書の方で、「金沢市の児童の実情に即し」という4番の項目の中で、その評価点として金沢ふるさと学習との関連というのが幾つかの項目に対して加点されているのですが、これはどういう学習で、どういう効果が期待できるかという意味合いでの評価になっているのかを教えてください。

(生活調査委員長) 例えば、報告書Aではふるさと学習の項目は8番になるのですが、ここに書かれているように、金沢のお祭りの写真が掲載されていたり、二次元バーコードで百万石まつりの様子が映像で見られるような資料などが載っていたりということが、ふるさと学習に関連するということで評価をしました。その他、郷土の昔遊びの視点でも掲載されているものがあるかどうかという視点で、豊富に資料が載っていれば評価を高くして調査したことになります。そのような視点で評価しています。

(選定委員) それに対して加点してある教科書は、その学習に使える要素が入っていたということなのですね。

(生活調査委員長) そういうことです。

(選定委員) ありがとうございます。

(事務局) 金沢ふるさと学習とは、小学校1・2年生は生活科もしくは学級活動の時間、3年生からは総合的な学習の時間の一部を使い、金沢のもつ伝統や文化、自然、歴史、食などの多様な素材や人材を活用し、金沢について学び、考え、かかわり、広めることを通して、金沢のまちに愛着と誇りを持ち、まちづくりの担い手を育むことを目指す学習です。

各学校においては、金沢ふるさと学習の実践に向けて、定められた時数を下限として、学校や地域の実情に応じた特色ある教育課程を編成しています。

(選定委員長) ありがとうございます。

(選定委員) 報告書に百万石まつりの写真を掲載とあるのですが、どこにあるのですか。

(選定委員長) 百万石まつりは、東京書籍、下の7ページに写真があります。

(選定委員長) よろしいでしょうか。では調査委員長、退席いただいて結構です。ありがとうございます。

<調査委員退室>

(選定委員長) それでは、ご意見等はありませんでしょうか。特に文言的には問題ないでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。では、ご感想も含めていかがでしょうか。先ほど私がサイズのことを質問させていただいたのは、大きい方が見やすいだろうと私自身も思っていたからです。ただ、大きいと重さは大丈夫かなと思っていましたが、軽いということもありましたし、単純に判断はできませんね。東京書籍のものでしたか、最後の方に本物のサイズのものがあるって、あれにはすごいなと思いました。本物のサイズを使ってうまく書いているなど。これはサイズを生かしてでないと、なかなか掲載できないなということも思いました。

では、他にないようですので確認させていただきます。報告書への内容について特に修正等のご意見がありませんでしたので、調査委員会の報告書の内容を尊重するとともに、先ほどの市民からの意見を傾聴して、生活科における教科書採択の答申書をこの内容で作成してよろしいでしょうか。

<異議なし>

(選定委員長) ありがとうございます。それでは皆さん、大変お疲れさまでした。以上で小学校は昨日から13種目の審議が終了しました。ご協力、本当にありがとうございました。では、この後は事務局にお願いしたいと思います。

4. 閉会

(事務局) 選定委員長はじめ委員の皆さま、2日間にわたり審議をありがとうございました。ただ今、委員長からお話がありましたが、今後はご審議いただいた内容を基にして答申をまとめさせていただきます。委員長、副委員長には選定委員会を代表して教育委員会の採択に係る答申をお願いしたいと

思いますので、よろしく申し上げます。

本日までの資料は会の性格上、全て回収させていただくことになります。机の上に全て置いてお帰りいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。選定委員長、副委員長におかれましては後日、教育委員会議に出席していただいたときに必要な資料ともなりますので、この後の事務局との打ち合わせもよろしくお願いいたします。それでは最後に金沢市教育委員会、野口教育長からご挨拶します。

(教育長) 松原委員長様、加藤副委員長様、そして5人の委員の皆さまには、2日間にわたり13種目という膨大な教科書についてご審議を賜りました。延べにしますと約7時間20分近くになって、大変お疲れになったことと思います。この後、今ほど話がありましたが、これからこの委員会としての答申を頂戴して、来週からになると思いますが、教育委員会議において、来年度から小学校で使用する教科書を選定させていただこうと思っています。

金沢市の小学生にとってふさわしい教科書ということで、これから真剣に採択を進めていきたいと思っていますが、その教科書に基づいて次年度から、主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくり、それから一番はどうしても先生方の授業力の向上につながっていきますので、そういうところに資するような個々の教育施策についてもしっかりと進めていきたいと思っています。

これからも皆さま方にはわれわれの教育施策を進めることについてお力添えを頂きたいと思っています。だんだん暑くなっていきますので、くれぐれも委員の皆さま方にはお体をご自愛いただき、ますますご健勝にてお過ごしいただくことを心からお願い申し上げます、閉会の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

(事務局) 以上をもちまして、第3回選定委員会を終了します。本日はどうもありがとうございました。

(一同) ありがとうございました。